

1330迄 (1388件)

- 1301年-05:30|インド| |||ハルジ朝、ランタンポール王国を占領
- 1301年-04:00|ロシア| |||<即位>リヤザン公「ウァシーリ1世コンスタンチノウイチ」(~1308年死去)
- 1301年-04:00|ロシア| |||<退位>リヤザン公「コンスタンチン・ロマノウイチ」(~1305年死去)
- 1301年-03:30|イラン| |||<即位>パダスパニド朝君主「Kai-Khosrow」(~1311年)
- 1301年-03:00|イェメン| |||<即位>ラッシー朝イマム「アルマティムハンマド」アルムタキ・アルムターの息子(~13281028死去)
- 1301年-02:00|ウクライナ| |||<死去>ガリチ公「レフ・ダニロウイチ」
- 1301年-02:00|ウクライナ| |||<死去>キエフ大公「レフ1世」
- 1301年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンテア公「ヤコポ・パロツィ」(~1303年)
- 1301年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ガリチ公・ヴォルィニ公「ユリー・リウウイチ」(~13080318死去)
- 1301年-02:00|ウクライナ| |||<即位>キエフ大公「ウラジミール5世」(~同年)⇒「スタニスラフ1世」シヨチウスの封臣(~1321年死去)
- 1301年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ペルス公「アントレ・ユリエウイチ」(~1323年死去)
- 1301年-02:00|トルコ| |||<即位>ラテン帝国皇帝「シャルルト・ウァロウ」カトリヌ1世の夫(~13071011)
- 1301年-02:00|トルコ| |||オスマン軍がパフォオンでビザンティン軍を撃破
- 1301年-01:00|クワチア| |||<就任>スラヴォニア全土のハン「ヘンリク・ヘテール・クシエ」(2度目~1309年)
- 1301年-01:00|ベルギー| |||<就任>リエージュ公「ヴァルデックのアドルフ」(~13021213死去)
- 1301年 00:00|イギリス| |||<就任>7代マー伯「ガルトナイト」(~1305年)
- 1301年 00:00|イギリス| |||<就任>9代チェスター伯「エドワード・アンジェ」(~13070707イングランド王エドワード2世)
- 1301年 00:00|イギリス| |||<就任>スコットランド大法官「ダングレイン司教コラス・デ・バルミル」(~1305年)
- 1301年1月14日-01:00|ハンガリー/クワチア| |||<死去>ハンガリー王・クワチア王「アンドラーシュ3世」アルバート王朝の終わり
- 1301年1月14日-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国ハラジン「マテ・フィア・ヒーター・ネパ・リ・サク」(2回目~13010827)
- 1301年1月26日-09:00|日本| 京都府京都市| 正安2年12月16日|<就任>関白「二条兼基」(~嘉元3(1305)年4月12日)
- 1301年2月10日-09:00|日本| ||正安3年|<任命>越前国守護「後藤基頼」(~不詳)
- 1301年2月10日-09:00|日本| ||正安3年|<任命>常陸国守護「小田宗知」(~不詳)
- 1301年2月10日-09:00|日本| 長崎県壱岐市| 正安3年| 波多宗無の妻華溪女の菩提寺華溪院[現・華光寺]を創建
- 1301年2月10日-09:00|日本| 福島県福島市| 正安3年1月| 太夫阿日尊岩代立子山に一円寺を創す
- 1301年2月12日-02:00|ギリシャ| |||<就任>アカア公「フィリップ1世・ティサウイア(ヒエント公)」(~1307年)
- 1301年2月20日-09:00|日本| ||正安3年1月11日|<死去>飛鳥井雅有(61歳)民部卿、歌人
- 1301年3月2日-09:00|日本| ||正安3年1月21日|<讓位>93代「後伏見天皇」/後宇多上皇が院政
- 1301年3月3日-09:00|日本| ||正安3年1月22日|<踐祚>94代「後二条天皇」/3月24日即位(~13080825)
- 1301年3月27日-09:00|日本| 京都府京都市| 正安3年2月17日| 京都火事/最勝光院類焼
- 1301年5月4日-01:00|イタリア/モロコ| |||ジエノヴァがモロコをグマリデイ家から奪取支配(~13310920)
- 1301年5月7日-09:00|日本| ||正安3年3月28日|<任命>伊勢国守護「北条(金沢)貞顕」(~元徳2(1330)年)
- 1301年5月9日-09:00|日本| 静岡県伊豆市| 正安3年4月| 太夫阿日尊伊豆柳瀬に実成寺を創す
- 1301年5月27日-09:00|日本| 京都府京都市伏見区| 正安3年4月19日| 日野法界堂焼亡
- 1301年7月13日-09:00|日本| ||正安3年6月7日|<任命>六波羅探題北方・山城国守護「北条基時(極楽寺流普恩寺氏)」(~嘉元元(1303)年10月20日→引付衆→執権)
- 1301年8月13日 00:00|世界| |||ハル彗星、出現。以後46日に渡って観測される
- 1301年8月23日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事「キルメイム院長ウィリアム・デ・ロス」(~13020331)
- 1301年8月27日-01:00|クワチア| |||<即位>クワチア王「Wenceslaus」(~13051009退位)
- 1301年8月27日-01:00|ハンガリー/クワチア| |||<即位>ハンガリー王・クワチア王「ラディスラウス(ラースロ5世)」ポランド王グアツワフ3世兼ボヘミア王グアクラフ3世(~13051009退位)
- 1301年9月3日-08:00|中国/モンゴル| |||元・大徳5年8月| ハドゥが元軍と戦い敗死、ハドゥの乱終結
- 1301年9月24日-09:00|日本| ||正安3年8月22日|<就任>10代鎌倉幕府執権「北條師時」(~応長元(1311)年9月22日死去)
- 1301年9月27日-09:00|日本| ||正安3年8月25日|<死去>鷹司兼忠(40歳/関白・摂政、左大臣)
- 1301年9月27日-09:00|日本| ||正安3年8月25日| 山名新治郎行直、同中務丞俊行、同三郎五郎為俊等、将軍家の仰に背き叛逆を起すによりて誅戮せらる
- 1301年10月3日-09:00|日本| ||正安3年9月|<出家>鎮西探題「北条[金沢]実政」
- 1301年10月6日-03:00|サウジアラビア| |||<死去>メッカ・シャリフ「アブー・ヌマイムハンマド・ブン・アビー・アサド・ナジム・アル・デイン」
- 1301年10月6日-03:00|サウジアラビア| |||<就任>メッカ・シャリフ「フマイダ・ブン・アビー・ヌマイム・イズ・アル・デイン」「ルマイタ・ブン・アビー・ヌマイ・アサド・アル・デイン」(~1302年8月)
- 1301年12月1日-09:00|日本| ||正安3年11月|<任命>鎮西探題「北条[金沢]政顕」(~正和4(1315)年7月辞任、子の種時が代行)
- 1301年12月11日-09:00|日本| 福井県| 正安3年11月11日|<死去>越前守護「後藤基頼」(64歳)六波羅引付頭人
- 1301年12月21日-09:00|日本/モンゴル/中国| 鹿児島県薩摩川内市| 正安3年11月21日| 蒙古の兵船200余艘甕島海辺を窺う
- 1302年-05:30|スリランカ| |||<即位>ジャナ王国国王「Varodaya Cinkaiariyan」(~1325年死去)
- 1302年-05:30|スリランカ| |||<即位>ダンバテニヤ王国国王「Parakkamabahu3世」Buvaneka Bahu1世の甥/Vijaya Bahu4世の息子(~1310年)
- 1302年-05:00|カザフスタン/キルギス/タジキスタン/ウズベキスタン| |||<死去>オルダ・ウルス・ハン「コニチ」
- 1302年-05:00|カザフスタン/キルギス/タジキスタン/ウズベキスタン| |||<即位>オルダ・ウルス・ハン「ハヤン」(~1309年死去)
- 1302年-05:00|エルデヴィグ| |||<即位>ティムゲ朝スルタン「Davud」(~1307年)

1330迄 (1388件)

- 1302年-04:00|ロシア| |||<死去>ヘレサウリ・ザレスキー公「ウァント・ミリエウイ」モスク大公国に併合
- 1302年-04:00|ジョージア| |||<即位>ゲルジア国王「ウァタンク3世」(~1308年死去)
- 1302年-02:00|トルコ| |||<死去>ラム・サルタン「Ala al-Din Kayqubad3世」
- 1302年-02:00|トルコ| |||<復位>ルム・セルジューク朝サルタン「マスード2世」(4回目~1304年)
- 1302年-01:00|ドイツ| |||<就任>オルデンブルク伯「クリスチャン4世」(~1323年)
- 1302年-01:00|フランス| |||<就任>シャルトル伯「John」(~1310年死去)
- 1302年-01:00|スウェーデン| |||<就任>セーデルマンランド公「エリク・マグヌソン」(~1318年死去)マグヌス3世の息子
- 1302年-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パラチン「イシュバーン・フィア・エルネ・ネンペリ・アコス」(1回目~1303年6月)
- 1302年-01:00|イタリヤ| |||アスタ公国が成立
- 1302年-01:00|フランス| |||ケルトレの戦いでフランス軍がフランドル市民軍に敗北
- 1302年 00:00|チャン礼諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー-島副守護者「Jean de Newent」(~1304年)
- 1302年1月16日-09:00|日本| ||正安3年12月17日<死去>体子内親王(神仙門院)(71歳)後堀河天皇の皇女
- 1302年1月30日-09:00|日本| 奈良県奈良市|正安4年|この年、僧文観文殊画像(西大寺)を描く
- 1302年3月3日-01:00|アントラ| |||<死去>アントラ公国共同大公「フォア伯爵ジョーエペルナル3世」
- 1302年3月3日-01:00|アントラ| |||<就任>アントラ公国共同大公「フォア伯爵ガストン1世」(~13151213死去)
- 1302年3月9日 00:00|イギリス| |||<死去>アランデル伯「リチャード・フィッツアラン」
- 1302年3月9日 00:00|イギリス| |||<就任>アランデル伯「エドムント・フィッツアラン」(~13261117死去剥奪)
- 1302年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジョヴァンニ・コセッタ・ジャンニ」
- 1302年4月4日-09:00|日本| ||正安4年3月6日|僧凝然、「円照上人行状」3巻を著す
- 1302年4月6日-01:00|イタリヤ| |||ベネチアがホスフォラスに軍隊派遣
- 1302年4月8日-01:00|スペイン| |||<死去>ゲラナ王国(ナシル朝)アミール「ムハマド2世」
- 1302年4月8日-01:00|スペイン| |||<即位>ゲラナ王国(ナシル朝)アミール「ムハマド3世」(~13090314退位)
- 1302年4月11日-02:00|ラトビア/エストニア| |||<就任>リガ大司教・リヴァント公「イェンス・ケラント」(~1304年)
- 1302年5月18日-01:00|ベルギー-フランス| |||フランドル市民がフランスの支配に抵抗して一斉蜂起した「ブルージュの朝暁」が起こり、ベルギー-北西部のブルージュ市民が駐留フランス兵を虐殺
- 1302年6月24日-01:00|イタリヤ| |||<死去>ミラノ・シニョール「マッテオ1世・ウァイスコンティ」
- 1302年6月24日-01:00|イタリヤ| |||<就任>ミラノ・シニョール「ガイード・デッラ・トルレ」(~13110106退任)
- 1302年6月30日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事代行「モーリス・ド・ロックフォード卿」(~9.29)
- 1302年7月11日-01:00|フランス| |||<死去>アルトワ伯「Robert2世」
- 1302年7月11日-01:00|フランス| |||<死去>オマル伯「John1世」
- 1302年7月11日-01:00|フランス| |||<死去>ダマルタン伯「Jean2世 de Trie」戦死
- 1302年7月11日-01:00|フランス| |||<就任>アルトワ伯「Mahaut」(~13291127死去)
- 1302年7月11日-01:00|フランス| |||<就任>オマル伯「John2世」(~1343年)
- 1302年7月11日-01:00|フランス| |||<就任>ダマルタン伯「Renaud2世 de Trie」(~1319年)
- 1302年7月11日-01:00|ベルギー-フランス| |||フランス軍、ベルギー-南東部のケルトレ(コルトレイク)の「ケルトレの戦い」で、「フランドル伯」ギイ・ド・タンピエールと結んだフランドル諸都市の民兵隊に大敗
- 1302年7月27日-02:00|トルコ| |||オスマン(オスマン)はハフェサスの戦いでビザンチン軍を打ち負かした
- 1302年8月-03:00|サウジアラビア| |||<即位>メッカ・シャリフ「アブー・アルカイト・ブン・アビー・ヌマイ・イマード・アルデイン」(ウタイファ・ブン・アビー・ヌマイ・サイフ・アルデイン) (~1305年7月)
- 1302年8月1日-09:00|日本| ||正安4年7月7日<任命>六波羅探題南方「北条貞顕(金沢流)」(~徳治3(1308)年12月)
- 1302年8月2日-02:00|エジプト/イタリヤ| |||ベネチアとエジプト王との通商条約
- 1302年8月21日-09:00|日本| 京都府京都市|正安4年7月27日|京都大火/春日万里小路より失火、南北2町東西8町焼亡
- 1302年9月-01:00|フランス| |||<死去>ハル伯「アンリ3世」
- 1302年9月-01:00|フランス| |||<就任>ハル伯「エドゥアル1世」(~1336.11死去)
- 1302年9月24日-01:00|イタリヤ| |||分裂状態のシチリア王国・ナポリ王国2国に「カルタベッロツタの和」が成立し、シチリア島はトリナクリア王国/シチリア王国の半島側がナポリ王国となる
- 1302年11月13日-01:00|ベルギー-| |||<死去>リエージュ公「ヴァルデックのアドルフ」
- 1302年11月13日-01:00|ベルギー-| |||<就任>リエージュ公「ハールのティボ」(~1312年死去)
- 1302年12月2日-02:00|フィンランド/スウェーデン| |||<就任>フィンランド公「ヴァルデマル・フォルクンガ」スウェーデン王マグヌス3世の子/スウェーデン王領地を付与(~13171210死去)
- 1302年12月10日-09:00|日本| ||乾元1年11月21日|「乾元」に改元
- 1302年12月26日-01:00|スウェーデン| |||<死去>元スウェーデン王国国王「ヴァルデマル1世」63才
- 1302年12月26日-09:00|日本| 山口県|乾元1年12月7日<死去>北条実政(54歳)長門探題、鎮西探題
- 1302年12月30日-09:00|日本| 神奈川県鎌倉市|乾元1年12月11日|鎌倉で大火があり、500人が死亡
- 1302年12月31日-01:00|フランス| |||<死去>ロレーヌ(ロートリンゲン)公「フェリ3世」
- 1302年12月31日-01:00|フランス| |||<即位>ロレーヌ(ロートリンゲン)公「ティボ」-2世」(~13120513死去)
- 1303年-08:00|インドネシア| |||<即位>スタガラ王国マラジャ「Prabu Citraganda/Sang Mokteng Tanjung」(~1311年)
- 1303年-08:00|中国/インド/モンゴル| |||アラルウッティーンがチトル城を攻略し、モンゴル軍を撃退
- 1303年-04:00|アルメニア| |||<即位>キリキア・アルメニア王国国王「レオ3世」(~13071117、殺害される)
- 1303年-02:00|ギリシャ| |||<死去>テッサリア尊厳公「コンスタンティノス・トウカス」

1330迄 (1388件)

- 1303年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンテア公「ゲイト・ダ・カレ」(1回目~1306年)
- 1303年-02:00|ギリシャ| |||<就任>ナクス公「グリエルモ1世」(~1323年)
- 1303年-02:00|トルコ| |||<譲位>キリキア・アルメニア王国国王「ハムム2世」(~1307年117死去)
- 1303年-02:00|トルコ| |||<即位>キリキア・アルメニア王国国王「レウオン4世」(~1307年死去)
- 1303年-02:00|ギリシャ| |||<即位>テッサリア尊厳公「ヨハネス2世トウカス」(~1318年死去)
- 1303年-02:00|トルコ| |||<復位>ラム・サルタン「Giyath al-Din Masud2世」(2回目~1307年)
- 1303年-01:00|フランス| |||<死去>リニ-領主「アンリ2世」
- 1303年-01:00|ドイツ| |||<就任>下ラウンツツ境界伯「オットー1世」フランドンツツ境界伯(~1308年1127死去)
- 1303年-01:00|ドイツ| |||<就任>リュッケン公「グイスラフ3世」(~1325年)
- 1303年-01:00|フランス| |||<就任>リニ-領主「Waleran2世」(~1354年死去)Henry2世の兄弟
- 1303年-01:00|ドイツ| |||<即位>ザクセン=ラウエンブルク公「ベルグドルフ=マルク系」ヨハン2世(~1322年0422死去)
- 1303年-01:00|ドイツ| |||<即位>ザクセン=ラウエンブルク公「ラウエンブルク系」アルブレヒト3世(~1308年死去),「エーリヒ1世」(~1338年退位)共同統治
- 1303年-01:00|ドイツ| |||<退任>ランツハル境界伯・下ラウンツツ境界伯「テートリヒ4世(テイツマン)」
- 1303年-01:00|ドイツ| |||ザクセン=ラウエンブルク公国はベルグドルフ=マルク系とラウエンブルク系に分裂
- 1303年-01:00|イタリア| |||ホニファチオ8世、ローマ大学を創設
- 1303年1月-01:00|イタリア| |||<即位>トレント司教公「Bartholomew Querini」(~1307年)
- 1303年1月19日-09:00|日本| ||乾元2年|<任命>出雲国守護「塩治貞清」(~正中3(1326)年3月28日死去、次に高貞が就任~1336年)
- 1303年1月19日-09:00|日本| |広島県尾道市|乾元2年|この年、印憲作「木造聖徳太子立像」(尾道浄土寺蔵)成る
- 1303年2月20日-02:00|エジプト| |||<即位>カイロ・アッバース朝カフムスタクフィー1世(~1340.2)
- 1303年3月5日-04:00|ロシア| |||<死去>モスクワ公「ダニール・アレクサンドロヴィチ」
- 1303年3月5日-04:00|ロシア| |||<即位>モスクワ公「ユーリ-3世ダニロヴィッチ」(~1325年1121死去)
- 1303年3月19日-09:00|日本| ||乾元2年3月|鎌倉幕府が諸国横行人を禁制
- 1303年3月26日-01:00|フランス| |||<死去>ブルゴニ-伯「トロン4世」
- 1303年3月26日-01:00|フランス| |||<就任>ブルゴニ-伯「ロベール」トロン4世の息子。名目のみ(~1315年死去)
- 1303年4月-02:00|エジプト/モンゴル/シリア・アラブ| |||ガザ-ンのシリア遠征軍とマムルーク軍がダマスカス近郊で戦闘、マムルーク軍がモンゴル・アルメニア連合軍を破る
- 1303年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「アミノ・パロン」「ステルベトのシモネ」
- 1303年4月20日-01:00|イタリア| |||<設立>ローマ教皇ホニファティウス8世がローマ市内に神学校(⇒ローマ・ラ・サピエンツァ大学)
- 1303年5月20日-01:00|フランス/イギリス| |||フランス王フィリップ4世(端麗王)、「パリ条約」を結び、イングランド王エドワード1世に、フランス王家が1294年から97年までに征服した土地を全て返還
- 1303年6月-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国「ラタイン「イヴァン・コセグ・フィア・ハンク・ネペリ・ヘーダー」(1回目~1304年4月)
- 1303年8月8日 02:00|エジプト/ギリシャ/シリア・アラブ| |||エジプト、ギリシャ、シリアで地震(M7.6)、死者1万人
- 1303年8月14日-08:00|中国/モンゴル| ||元・大徳7年7月|チャバル(ハイダウ嫡子)とチャグタイ家のトウク、元に降伏講和し、ハイダウの乱完全終結
- 1303年9月7日-01:00|バチカン/イタリア| |||ローマ近郊アナニの別荘に滞在中の教皇ホニファティウス8世がフランスのギヨーム・ド・ノグレに襲撃され監禁される(アナニ事件)
- 1303年9月16日-09:00|日本| ||嘉元1年8月5日|「嘉元」に改元
- 1303年9月17日-08:00|中国| ||元・大徳7年8月6日|山西、洪洞・趙城地震/M8.0、死者20万人(47万5,800人とも)
- 1303年10月11日-01:00|バチカン| |||<死去>第193代ローマ教皇「ホニファティウス8世」
- 1303年10月15日-01:00|アンドラ| |||アンドラはアラゴンの保護下
- 1303年10月22日-01:00|バチカン| |||<就任>第194代ローマ教皇「ベネディクトゥス11世」(~13040707)
- 1303年11月10日-09:00|日本| |広島県廿日市市|嘉元1年10月|則長作太刀(宮島厳島神社蔵)成る
- 1304年-08:00|インドネシア| |||<即位>テルナテ・スルタン「Komaljo」(~1317年)、「Ngara Malamo」(~1317年)
- 1304年-05:30|インド| |||ハルジ-朝がチャンテ-朝を打倒
- 1304年-03:30|イラン| |||<死去>インジュ-朝シャー「シャラフッディーン・マフムド・シャー」(~1336年)
- 1304年-02:00|エストニア/デンマーク| |||<就任>デンマーク・エストニア総督「ヨハン・サクセツ」(~同年)
- 1304年-02:00|トルコ| |||<復位>ルーム・セルジューク朝スルタン「カイハート3世」(4回目~1308年)
- 1304年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||サロス島はジェノヴァの所有(~1329年)
- 1304年-01:00|ドイツ/ポーランド| |||<死去>フランドンツツ公「シュテンダール境界伯「コンラート」
- 1304年-01:00|フランス| |||<就任>オセル伯「John2世」(~1361年)
- 1304年-01:00|ポズナ-ア・ヘルツェゴビナ/クロアチア| |||<就任>ポズナ-ア・バン「ムラテン2世シュビッチ・オブ・ブリヒル」(~1322年)
- 1304年1月21日-09:00|日本| ||嘉元1年12月14日|<任命>六波羅探題北方・山城・播磨国守護「北条時範(極楽寺流常盤氏)」(~徳治2(1307)年8月14日)
- 1304年1月26日-09:00|日本| ||嘉元1年12月19日|藤原為世の新後撰和歌集が撰進される
- 1304年2月7日-09:00|日本| |富山県高岡市|嘉元2年|慈雲妙意が国泰寺創建<臨済宗国泰寺派>
- 1304年2月7日-09:00|日本| |兵庫県神戸市北区|嘉元2年|この年、播磨国太山寺本堂できる
- 1304年2月9日 00:00|イギリス| |||スコットランドをイングランドが占領(~13070707)
- 1304年2月27日-09:00|日本| ||嘉元2年1月21日|<死去>東二条院公子(西園寺実氏の娘、後深草天皇中宮)
- 1304年3月21日-02:00|ラトヴィア/エストニア| |||<就任>リガ大司教「ウラント公「フリートリヒ・パナー・フォン・ヘルシュタイン」(~1341年3

1330迄 (1388件)

月没)

- 1304年4月-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パライン「シュトパーン・フィア・エルネ・ネベリ・アクス」(2回目~1305年)
- 1304年5月 00:00|ポルトガル| |||<死去>ポルトガル公「Joao Afonso Telo」
- 1304年5月 00:00|ポルトガル| |||<就任>ポルトガル公「Martim Gil de Riba de Vizela」先代の娘婿(~13121123死去)
- 1304年5月17日-03:30|イラン| |||<死去>イルハン朝第7代君主「ガザン」
- 1304年6月-01:00|アルジェリア| |||<死去>サイヤン朝スルタン「アブー・サイド・ウスマン1世」
- 1304年6月6日-01:00|アルジェリア| |||<即位>サイヤン朝スルタン「アブー・ザイヤン1世」(~1308年死去)
- 1304年7月7日-01:00|パチカン| |||<死去>193代ローマ教皇ベネディクトゥス11世[1240年生~](享年64)
- 1304年7月21日-03:30|イラン| |||<即位>イルハン朝君主「オルジェイトウ」ガザンの弟(~13161216死去)
- 1304年7月27日-04:00|ロシア| |||<死去>ウラジミール・スズダリ大公「コストロマ公アントレイ・アレクサンドロウイチ」
- 1304年7月27日-04:00|ロシア| |||<即位>ウラジミール・スズダリ大公「トウエリ公ミハイル・ヤロスラウイチ」(~13181122死去)
- 1304年8月5日-01:00|ドイツ| |||<死去>ホシュタイン=レンスブルク伯「ハインリッヒ1世」
- 1304年8月5日-01:00|ドイツ| |||<就任>ホシュタイン=レンスブルク伯「ゲルハルト3世大伯」(1326年シュレースウイヒ公ゲルハルト1世~1330年ホシュタイン=レンスブルク伯~13400401死去)
- 1304年8月17日-09:00|日本| ||嘉元2年7月16日|<死去>「後深草法皇」62歳(誕生:寛元1(1243)0610)89代天皇
- 1304年8月18日-01:00|フランス| |||フランス軍、フランス北部の「モンサン=ヴェールの戦い」でフランドル軍に勝利
- 1304年8月22日-01:00|オランダ| |||<死去>エノー伯「ジャン2世」
- 1304年8月22日-01:00|オランダ| |||<就任>エノー伯「ギヨーム1世」(~13370607)
- 1304年9月14日-01:00|フランス| |||フランス軍、フランス北部のルールを陥落させる
- 1304年9月29日 00:00|イギリス| |||<死去>サリ伯「ジョン・ド・ワレン」
- 1304年9月29日 00:00|イギリス| |||<就任>サリ伯「ジョン・ド・ワレン」(~1347.6死去)
- 1304年10月9日-01:00|アルバニア| |||<就任>アルバニア王国領主「トラント公フィリップ」(~13311226没)
- 1304年10月9日-01:00|アルバニア| |||テュツツォはアルバニア王国の一部
- 1304年10月30日-09:00|日本| 福島県須賀川市|嘉元2年10月|太夫阿日尊岩代仁井田に願成寺を創す
- 1304年11月4日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事「エドマント・ハトラー」(~13050523)
- 1305年-05:30|インド| |||<建国>パランパ国
- 1305年-05:30|インド| |||<死去>パラマラ朝国王「Mahalakadeva」
- 1305年-05:30|インド| |||ハルジ朝がパラマラ朝を滅ぼし、マールワ地方を併合、モンゴル軍を撃退
- 1305年-05:30|インド| |||ホイヤ朝パッラマ3世がヤタ朝に進軍し、領土を奪取
- 1305年-04:00|ロシア| |||<即位>スズダリ公「ヴァシリ・アントレウイチ」(~1309年)
- 1305年-02:00|トルコ| |||<即位>テイク・ベイク・ベイク「Inanc・ベイク」(~1335年)
- 1305年-01:00|ドイツ/オランダ| |||<死去>クレフェ伯「デイトリヒ7世」
- 1305年-01:00|ドイツ| |||<就任>ヴァイマル=オーラミュンデ伯「オット6世」(~1340年)
- 1305年-01:00|ドイツ| |||<就任>オルデンブルク伯「ヨハン3世」(~1345年)
- 1305年-01:00|ドイツ/オランダ| |||<就任>クレフェ伯「オット」(~13101029死去)
- 1305年-01:00|ベルギー| |||<就任>ナムール伯「ジャン1世」ギーズの子(~13300131死去)
- 1305年-01:00|マルタ| |||<就任>マルタ伯「Guglielmo Raimondo Moncada」(~1320年死去)
- 1305年 00:00|イギリス| |||<就任>8代マー伯「トムナル2世」(~13320811死去)
- 1305年 00:00|マリ| |||<即位>マリ帝国マンサ「Mohammed ibn Gao」(~1310年)
- 1305年1月18日-09:00|日本| 三重県伊勢市|嘉元2年12月22日|第33回内宮遷宮
- 1305年1月26日-09:00|日本| ||嘉元3年|<任命>筑後国守護「宇都宮頼房」(~1315年、以後北条氏~1333年)
- 1305年3月7日-01:00|フランス/ベルギー| |||<死去>フランドル伯「ギー1世」
- 1305年3月7日-01:00|フランス/ベルギー| |||<就任>フランドル伯「ロベール3世」ギー1世の息子(~13220917死去)
- 1305年3月25日-09:00|日本| 京都府京都市|嘉元3年2月29日|京中での酒の販売が禁止される
- 1305年4月4日-01:00|スペイン/フランス| |||<死去>ナバラ王「ファナ1世」兼シャンパニュ伯「ジャンヌ」34歳
- 1305年4月4日-01:00|フランス| |||<就任>シャンパニュ伯「ルイ・フィリップ」4世とジャンヌの息子(⇒13141129フランス王位に統合)フランス王ルイ10世
- 1305年4月4日-01:00|スペイン| |||<即位>ナバラ王「ルイス1世」フェリペ1世とファナ1世の男子(~13160605死去26歳)
- 1305年4月4日-01:00|スペイン| |||<退位>ナバラ王「フェリペ1世」(~13141129死去46歳)
- 1305年4月28日-09:00|日本| 奈良県北葛城郡王寺町|嘉元3年4月4日|興福寺の僧徒が大和国片岡の達磨寺を焼く
- 1305年5月6日-09:00|日本| ||嘉元3年4月12日|<就任>関白「九条師教」(~延慶元(1308)年8月25日)
- 1305年5月17日-09:00|日本| ||嘉元3年4月23日|<死去>長門探題「北条時村」北条宗方に暗殺される/64歳(誕生:仁治3(1242)年)/幕府の連署
- 1305年5月17日-09:00|日本| ||嘉元3年4月23日|<任命>長門探題「北条熙時」(~1306年)
- 1305年5月25日-09:00|日本| 神奈川県鎌倉市|嘉元3年5月2日|北条宗方の陰謀が発覚し、幕府は北条時村殺害に関連した徒党12人を討つ
- 1305年5月27日-09:00|日本| 神奈川県鎌倉市|嘉元3年5月4日|<死去>若狭国守護「北条宗方」佐々木時清と相打ち(次に、宣時、貞時、高時と続く~1333年)
- 1305年6月5日-01:00|パチカン| |||<就任>第195代ローマ教皇「クレメンス5世」(~13140420死去)
- 1305年6月21日-01:00|ポランド/チェコ| |||<死去>ポランド王・ホミア王・マウホルスカ公・モウイア辺境伯「ウァツワ2世」病死
- 1305年6月21日-01:00|ハンガリー| |||<即位>ハンガリー国王「オットー」ベラ4世の孫(~1307年退位)
- 1305年6月21日-01:00|ポランド/チェコ| |||<即位>ポランド王・ホミア王・モウイア辺境伯「ウァツワ3世」/ウァツワ2世の息

1330迄 (1388件)

子 (~13060804暗殺される16歳)

- 1305年7月-03:00|サウジアラビア | ||<復位>メッカ・シャリフ「フアイド・ブン・アビドゥン・ヌマイ・イズ・アル・デイン」「ルマイド・ブン・アビドゥン・ヌマイ・アサド・アル・デイン」 (~1314年3月)
- 1305年7月4日-09:00|日本|京都府京都市|嘉元3年6月12日|京都洪水/上賀茂の橋梁流失
- 1305年8月3日-01:00|チュニジア/イタリヤ | ||<条約>ベネチアとチュニジア王との条約
- 1305年8月23日 00:00|イギリス | ||<反乱軍指導者騎士ウリスは、捕らえられ八つ裂きの刑に処せられた
- 1305年9月19日-09:00|日本|愛知県豊田市|嘉元3年8月30日|三河国猿投社で遷宮
- 1305年10月4日-09:00|日本 | ||<死去>嘉元3年9月15日|<死去>亀山天皇 (57歳) 第90代天皇
- 1305年10月9日-01:00|ハンガリー | ||<就任>ハンガリー王国パラタイン「ヤコブ・コハス・フィア・タマス・ネペリ・ホルガ」 (~1306年2月)
- 1305年10月9日-01:00|ハンガリー/クロアチア | ||<退位>ハンガリー王・クロアチア王「ラドイスラウス (ラースロ5世)」ホーランド王「アツワ3世 兼ホーミア王「アークラフ3世
- 1305年10月30日-09:00|日本 | ||<死去>嘉元3年10月12日|<死去>常陸佐竹氏7代目当主「佐竹行義」43才/貞義が継ぐ
- 1305年11月-02:00|キプロス | ||<就任>聖ヨハネ騎士団マスター「ファウケト・ビシヤレ」 (1回目 ~1317年9月)
- 1305年11月16日-01:00|フランス/イギリス | ||<死去>ブルターニュ公・リッチモンド伯「ジャン2世」66歳
- 1305年11月18日-01:00|フランス | ||<即位>ブルターニュ公「アルテュール2世」ジャン2世とベアトリス・ダングルテルの長男 (~13120827 死去50歳)
- 1305年12月5日-01:00|クロアチア | ||<即位>クロアチア王「ベラ5世」 (~1307.5退位)
- 1305年12月5日-01:00|ハンガリー/クロアチア | ||<即位>ハンガリー王・クロアチア王「ヘーラ5世」パイル公オット3世 (~1307年6月)
- 1305年12月17日-09:00|日本 | ||<続・門葉和歌集できる
- 1305年12月17日-09:00|日本|愛媛県松山市|嘉元3年12月|和気郡太山寺本堂再建
- 1306年-07:00|ベトナム | ||<即位>パトナム王「ポパタスuar (Ba Buc)」 (~1328年)
- 1306年-05:30|インド | ||<即位>東ガング朝国王「ハヌ・ステーヴ2世」 (~1328年)
- 1306年-05:00|ウズベキスタン | ||<版図確立>チャガタイ・ウルス。ハン・トウがチャガタイ・ハン国版図確立
- 1306年-02:00|ギリシャ/イタリヤ | ||<就任>ヴェネチアのカンテリア公「フェデリコ・ベレット・ジユスティニアニ」 (~同年)
- 1306年-02:00|ギリシャ/イスラエル | ||<所有>カステロリノ島はエルサレムの聖ヨハネ病院の騎士団 (聖ヨハネ騎士団、後のマルタ騎士団) の所有 (~1440年)
- 1306年-01:00|ドイツ | ||<就任>ハッハルク・ザウケンベルク辺境伯「ルトルフ1世」 (~1306年)
- 1306年-01:00|イタリヤ | ||<就任>モンフェラート侯「テオドロ1世」ジヨアンニ1世の姉エレネーの四男 (~13380424)
- 1306年-01:00|イタリヤ | ||<退任>レツジョ侯「アツォ8世」 (~13080131死去)
- 1306年-01:00|フランス | ||<追放>フランスでユダヤ人10万人が追放
- 1306年 00:00|アイルランド | ||<死去>トモント王「トイルド・ヘルバツハ・モル・オー・ブリアン」
- 1306年 00:00|チャンネル諸島/イギリス | ||<就任>イギリス王領ジャージー-島副守護者「Jean de Ditton」 (~1309年)
- 1306年 00:00|アイルランド | ||<即位>トモント王「トドンチャド・マック・トイルド・ヘルバツハ・モル・オー・ブリアン」トイルド・ヘルバツハ・モル・オー・ブリアンの息子 (~1311年没)
- 1306年1月2日-09:00|日本|京都府京都市伏見区|嘉元3年12月17日|醍醐寺の宝池院・無量光院焼亡
- 1306年2月-01:00|ハンガリー | ||<就任>ハンガリー王国パラタイン「イヴァン・コセギ・フィア・ハンリク・ネペリ・ヘーダ」 (2回目 ~1307年6月)
- 1306年2月14日-09:00|日本 | ||<任命>嘉元4年|<任命>丹波国守護「六波羅探題南方兼任」 (~1333年)
- 1306年2月14日-09:00|日本|愛知県名古屋市中川区|嘉元4年|藤原国弘、三河国八剣社の社殿を建てる
- 1306年2月14日-08:00|中国/モンゴル | ||<併合>元の大徳10年|<併合>コカチン・ハン国がチャガタイ・ハン国に併合され消滅
- 1306年3月5日-01:00|ドイツ | ||<死去>ラーフェンスベルク伯「オット3世」
- 1306年3月5日-01:00|ドイツ | ||<就任>ラーフェンスベルク伯「オット4世」 (~1328年死去)
- 1306年3月21日-01:00|フランス | ||<死去>ブルゴニユ公「ロベール2世」
- 1306年3月21日-01:00|フランス | ||<即位>ブルゴニユ公「ユグ5世」 (~13150509死去)
- 1306年3月25日 00:00|イギリス | ||<即位>スコットランド王「ロバート1世幸運王」 (~13290607死去54歳)
- 1306年4月26日-02:00|キプロス | ||<就任>キプロス総督「アマリト・ルシヤン」 (~13100605、死去)
- 1306年5月7日-01:00|ポーランド | ||<死去>ラヂフシ公「Przemyslaw」
- 1306年5月7日-01:00|ポーランド | ||<就任>ラヂフシ公「Leszek」 (~1336年死去)
- 1306年5月27日-02:00|ギリシャ/イスラエル | ||<領有権>「ウイニョーロ・デ・ウイニョーリ」は、ロード島、コス島、ロス島に対する領有権をエルサレムの聖ヨハネ・ホスピタル騎士団に売却
- 1306年6月7日-08:00|中国/日本/モンゴル | ||<貿易>元・大徳10年|嘉元4年4月25日|日本商船が元の慶元 (寧波) に至って貿易
- 1306年6月26日 00:00|イギリス | ||<討伐軍を起したエドワード1世に大敗し、主な協力者は処刑され、スコットランド国王ロバート自身もルウェーにまで逃れた
- 1306年8月4日-01:00|チェコ/ポーランド | ||<暗殺>ホーミア王兼ポーランド王・モラヴィア辺境伯「ウアツワ3世」暗殺される16歳
- 1306年8月4日-01:00|ポーランド | ||<即位>ポーランド公「ウラディスワフ1世ウキエテク」コンラト1世の孫息子/レシク2世の異母弟/ポーランド王国を再統合 (⇒1320年ポーランド王 ~13330302死去)
- 1306年8月22日-01:00|チェコ | ||<即位>ホーミア王・モラヴィア辺境伯「ジントリヒ・カリツシア」オーストリア公ルトルフ3世。ウアツワ3世の母方の従兄。ウアツワ2世の娘アンナと結婚 (1回目 ~1306年9月)
- 1306年9月-01:00|チェコ | ||<廃位>ホーミア王・モラヴィア辺境伯「ジントリヒ・カリツシア」
- 1306年9月12日-08:00|中国 | ||<地震>元・大徳10年8月4日|中国・寧夏省、固原で地震 (M6.5)。、死者5千人
- 1306年10月15日 00:00|イギリス | ||<就任>リッチモンド伯「ジャン」ジャン2世の子 (~13340117死去)

1330迄 (1388件)

- 1306年10月16日-01:00|チェコ| |||<即位>ホヘミア王・モラヴィア辺境伯「ルドルフ1世・ハフスブルスキ」オーストリア公 (~13070704死去)
- 1306年11月-01:00|イタリア/イラク| |||<ベネチアとペルシャの سلطان と通商協定
- 1306年12月19日-01:00|フランス/イタリア| |||<ヴェネチア、シャルド・ヴァロアとレヴァント貿易をめぐる協定
- 1307年-07:00|ベトナム| |||<即位>チャンパ王「Jaya Simhavarman4世 (Che Chi)」 (~1312年)
- 1307年-05:30|インド| |||<国名変更>ホルナンタル国⇒ランポル国
- 1307年-05:30|インド| |||<ハルジ朝の武将マリクがヤヴァ朝の首都を陥す
- 1307年-05:00|ウズベキスタン| |||<死去>チャガタイ・ウルス・ハン「トウア」
- 1307年-05:00|ウズベキスタン| |||<即位>チャガタイ・ハン国ハン「コンチェク」トウアの子 (~1308年死去)
- 1307年-05:00|モルティヴ| |||<即位>ティームゲ朝 Sultan 「Omar1世」 (~1341年)
- 1307年-04:00|ロシア| |||<即位>プスコフ公「フォートル・ミハロウイチ」 (~同年)
- 1307年-04:00|ロシア| |||<即位>ロストフ公「アレクサンドル・コンスタンチノウイチ」 (~1318年)、「ウァシリイ・コンスタンチノウイチ」 (~1316年)
- 1307年-03:00|ベラルーシ| |||<即位>ホロック公「ウァイニウス」 (~1336年)
- 1307年-03:00|ベラルーシ/リトアニア| |||<編入>リトアニアのホロック部分
- 1307年-02:00|トルコ| |||<死去>キキア・アルメニア王国国王「レウオン4世」
- 1307年-02:00|ギリシャ| |||<就任>アカイア公「フィリッポ1世・ティターラント」 (~1313年)
- 1307年-02:00|ギリシャ| |||<就任>ドテカサ領主「ウァイニョーロ・ティウァイニョリ」 (~1309年)
- 1307年-02:00|トルコ| |||<即位>キキア・アルメニア王国国王「オシ」 (~13200720死去)
- 1307年-02:00|ギリシャ/トルコ| |||<エピソード>ビザンチン (東ローマ) 帝国が統治 (~1318年)
- 1307年-01:00|オーストリア| |||<死去>シュターアマル公「ルドルフ3世」
- 1307年-01:00|フランス| |||<死去>ブロワ伯「ヒュー2世」
- 1307年-01:00|フランス| |||<就任>ブロワ伯「Guy1世」 (~13420812死去)
- 1307年 00:00|イギリス| |||<就任>3代サラント伯「ウァリアム・モラヴィア (ウァリアム・サラント)」 (~1330. 12死去)
- 1307年 00:00|イギリス| |||<就任>ペンブルック伯「エイマート・ウァランス」 (~13240623死去)
- 1307年 00:00|マリ| |||<マリ王マンサ・ムサが即位、トンブクトゥにモスクを建設し最盛期
- 1307年1月14日-06:30|ミャンマー| |||<死去>ベグー王「ワレール」
- 1307年1月18日-09:00|日本| ||<徳治1年12月14日|「徳治」に改元
- 1307年1月24日-09:00|日本| ||<三重県伊勢市|徳治1年12月20日|第33回外宮遷宮
- 1307年1月28日-06:30|ミャンマー| |||<即位>ベグー王「ケン・ロー」 (~1311年3月没)
- 1307年2月3日-08:00|中国/日本/モンゴル| ||<元・大徳11年|元の慶元 (寧波) で日本人商人が元の官吏と争い、城内に突入して放火・掠奪
- 1307年2月3日-07:00|ベトナム| ||<大越・興隆15年|<死去>チャンパ王「ジヤ・シンハヴァ」アルマン3世
- 1307年2月3日-07:00|ベトナム| ||<大越・興隆15年|<即位>チャンパ王「ジヤ・シンハヴァ」アルマン4世 (~1312年大越の英宗に捕らわれる)
- 1307年2月3日-07:00|ベトナム| ||<大越・興隆15年|大越・陳朝がチャンパの2州を併合
- 1307年2月4日-09:00|日本| ||<徳治2年|<任命>長門探題「北条時仲」 (~1319年)
- 1307年2月10日-08:00|中国/モンゴル| ||<元・大徳11年1月8日|<死去>元第2代皇帝「成宗テムル」/年42
- 1307年5月-01:00|クロアチア| |||<退位>クロアチア王「Bela5世」
- 1307年5月 00:00|イギリス| |||<スコットランド王ロバート・ブルスがイングランド軍を破る
- 1307年5月3日-09:00|日本| ||<徳治2年4月上旬|宗俊一遍上人絵伝10巻 (金蓮寺) を作る
- 1307年5月13日 00:00|モロッコ| |||<死去>マリン朝 Sultan 「アブ・ヤクブ・ユスフ」
- 1307年5月13日 00:00|モロッコ| |||<即位>マリン朝 Sultan 「アブ・サーヒト・アミール」 (~13080728死去)
- 1307年5月25日-01:00|イタリア/アルメニア| |||<ヴェネチア、アルメニア王との通商協定
- 1307年6月-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パラチン「ロランド・フィア・レスタク・ネベリ・ラート」 (~13071010)、「アマト・フィア・ダグイト・ネベリ・アバ」 (7回目~1310年6月)、「マテ・フィア・ヒーター・ネベリ・サーク」 (3回目~1310年6月)、「ヤブ・コハス・フィア・タス・ネベリ・ホルサ」 (~1315年)
- 1307年6月-01:00|ハンガリー/クロアチア| |||<退位>ハンガリー王・クロアチア王「ベラ5世」
- 1307年6月21日-08:00|中国/モンゴル| ||<元・大徳11年5月21日|<即位>元第3代皇帝「武宗カイシャン」 (~至大4年1月8日1311年1月27日) チンギムの次男タルマバラ (順宗) の子、テムルの甥
- 1307年7月4日-01:00|オーストリア/チェコ| |||<死去>オーストリア公「ルドルフ3世」兼ホヘミア王・モラヴィア辺境伯「ルドルフ1世・ハフスブルスキ」26歳/赤痢で病死
- 1307年7月7日 00:00|イギリス/フランス| |||<死去>イングランド王「エドワード1世長脛王」兼アキテーヌ公「エドゥアル1世」スコットランド遠征途中に病死/68歳 (誕生12390617)
- 1307年7月7日 00:00|イギリス/フランス| |||<即位>イングランド王「エドワード2世」 (~13270125退位~13270921殺害される43歳) 兼アキテーヌ公「エドゥアル2世」 (1325年退位) エドワード1世とエリザベス・カスティルの男子
- 1307年8月15日-01:00|チェコ| |||<復位>ホヘミア王・モラヴィア辺境伯「インツフ・コルタンスキ」ケルテン公 (2回目~13101203廃位~13350402死去)
- 1307年8月22日-09:00|日本| ||<徳治2年7月24日|<死去>れい子内親王 (遊義門院) (38歳) 後深草天皇の皇女、後宇多天皇の妃
- 1307年8月24日-09:00|日本| ||<徳治2年7月26日|後宇多上皇、出家して法皇となる
- 1307年9月-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パラチン「イストヴァーン・フィア・エルネ・ネベリ・アコス」 (~10. 10)
- 1307年9月11日-09:00|日本| ||<徳治2年8月14日|<死去>北条時範 (44歳) 六波羅探題北方

1330迄 (1388件)

- 1307年9月29日 00:00|マン島/イギリス| |||<就任>マン島知事「Piers Gaveston」(~1308年)
- 1307年10月10日-01:00|ハンガリー/クワチア| |||<即位>ハンガリー王・クワチア王「カロイ1世」イシュトヴァーン5世の曾孫(~13420716没)
- 1307年10月11日-02:00|トルコ| |||<死去>ラテン帝国皇帝「カトリヌ1世」
- 1307年10月11日-02:00|トルコ| |||<即位>ラテン帝国皇帝「カトリヌ2世」シャルル・ド・ヴァロワとカトリヌ1世の娘(~1346.10死去)
- 1307年10月13日-01:00|フランス| |||フランス王フィリップ4世、尚書・法律顧問(レジスト)ギヨーム・ド・ガレに命じて「テンプレ騎士団」の「修道院」(3区)を襲撃させる/総長ジャック・ド・モレや騎士団員を異端の罪で一斉に逮捕/同日、フランス全土のテンプレ騎士修道士を逮捕
- 1307年10月13日 00:00|イギリス| |||フランス国王フィリップ4世が、国内のテンプレ騎士団を逮捕し解散させる
- 1307年10月30日 00:00|イギリス| |||フランス国内にいる数千人のテンプレ騎士およびその同志が逮捕される
- 1307年11月17日-04:00|アルメニア| |||<死去>キリキア・アルメニア王国国王「レオ3世」殺害される
- 1307年11月17日-04:00|アルメニア| |||<即位>キリキア・アルメニア王国国王「オシ」(~13200720死去)
- 1307年11月23日-01:00|ドイツ| |||<死去>トリア選帝侯「ティーター」
- 1307年11月23日-01:00|ドイツ| |||<就任>トリア選帝侯「バルドゥイン」(~13540121死去)
- 1307年11月24日-01:00|フランス| |||(10月19日~)パリとその周辺で138人のテンプレ騎士が勾留され、異端審問官から尋問を受け、拷問で36人が死亡
- 1307年12月10日-01:00|ドイツ| |||<死去>テューリンゲン方伯「ディーツマン」ラウジッツ辺境伯
- 1308年-07:00|カンボジア| |||<即位>カメル王朝国王「インドラジャヤヴァルマン」(~1327年)
- 1308年-05:30|インド| |||ハルジ朝の武将マリガテが地方以南へ波状的に遠征を開始
- 1308年-05:00|ウズベキスタン| |||<死去>チャガタイ・ハン国ハン「ゴンチク」
- 1308年-05:00|ウズベキスタン| |||<即位>チャガタイ・ハン国ハン「ナリク」プリの子カダキ・セチンの子。フカテムルの弟(~同年)→「ケベク」トウアの子(~1309年)
- 1308年-04:30|アフガニスタン| |||<即位>カト朝マリク「Ghiyath-uddin ibn Rukn-uddin」(~1329年)
- 1308年-04:00|シオリア| |||<死去>カメル王朝国王「ヴァタンク3世」
- 1308年-04:00|ロシア| |||<死去>リザン公「ウァシーリ1世」コンスタンチン「イ」
- 1308年-04:00|ロシア| |||<就任>ノヴゴロド共和国ノヴゴロド公「ミハイル・ヤロスラフ「イ」」(~1314年)
- 1308年-04:00|ロシア| |||<即位>リザン大公「イヴァン1世」ヤロスラフ「イ」(~1327年死去)
- 1308年-04:00|シオリア| |||<復位>カメル王朝国王「ダビデ8世」(~1311年死去)
- 1308年-03:30|イラン| |||<即位>カト朝マリク「ギヤスッディーン・イブン・ルクヌッディーン」(~1329年)
- 1308年-02:00|ギリシャ/イタリヤ| |||<就任>ウエネツィアのカンテアファ公「グイド・ダ・カナル」(2度目~1310年)
- 1308年-02:00|トルコ| |||<即位>アイトゥン侯国ベイ「Muharizalsin Gazi Mehmed・ベイ」(~1334年)
- 1308年-02:00|トルコ| |||<即位>カラマニ朝ベイ「Yahsi Han Bey」(~1312年)
- 1308年-02:00|トルコ| |||<即位>ルーム・セルジューク朝スルタン「マスード3世」(~同年死去、ルーム・セルジューク朝滅亡)
- 1308年-01:00|アルゼリア| |||<死去>サイヤーン朝スルタン「アフマド・ザイヤーン1世」
- 1308年-01:00|ドイツ| |||<死去>ザクセン＝ラウエンブルク公ラッツェブルク＝ラウエンブルク系「アルブレヒト3世」
- 1308年-01:00|ドイツ| |||<死去>マルク伯「エーバールト2世」
- 1308年-01:00|ドイツ| |||<就任>ヘッセン方伯「オット1世子」子供「ハインリヒ1世」の上の息子(オーバーヘッセン(マルブルク)のみを統治→1311年ヘッセンを統合~1328年)、ヘッセン方伯「ヨハン」ハインリヒ1世の下の息子(ニーダーヘッセン(カッセル)のみを統治~1311年)
- 1308年-01:00|ドイツ| |||<就任>ホルシュタイン＝ゼーゲベルク伯「アドルフ7世」(~1315年暗殺され、ホルシュタイン＝ゼーゲベルクはホルシュタイン＝キールに戻され、父親であるヨハン2世が領した)
- 1308年-01:00|ドイツ| |||<就任>マルク伯「エンゲルベルト2世」(~13280718死去)
- 1308年-01:00|クワチア| |||<即位>クワチア王「チャールズ1世」チャールズ・マルテルの息子(~13420716死去)
- 1308年 00:00|イギリス| |||<死去>バカン伯「ジョン・カミン」没収
- 1308年 00:00|イギリス| |||<就任>スコットランド大法官「アブ・ロス」修道院長(後アイル司教)「ベルナルド」(~1328年)
- 1308年 00:00|マン島/イギリス| |||<就任>マン島知事「Henri de Beaumont」(1期目~1310年)
- 1308年1月24日-04:00|ロシア/中国/モンゴル| |||樺太のアイヌが元に服従する
- 1308年1月24日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至大1年1月1日|元の武宗が至大(-1311年)と改元
- 1308年1月28日 00:00|イギリス/フランス| |||イングランド王エドワード2世、フランス王フィリップ4世(端麗王)の娘イザベラ・オブ・フランスとフランスの北部フロンシュール＝メルで結婚
- 1308年1月31日-01:00|イタリヤ| |||<死去>フェラー侯「アツォ8世」
- 1308年1月31日-01:00|イタリヤ| |||<就任>フェラー侯「フレスコ」(~同年~1312年死去)
- 1308年2月1日-01:00|ドイツ/ポーランド| |||<死去>ブランデンブルク＝ザルツヴェーデル辺境伯「ヘルマン」
- 1308年2月1日-01:00|ドイツ/ポーランド| |||<就任>ブランデンブルク＝ザルツヴェーデル辺境伯「ヨハン5世」ヘルマンの息子. 共同統治(~13170324~13170326死去)
- 1308年3月4日-09:00|朝鮮| ||高麗・至大1年2月11日|元の改元を受け高麗も至大と改元
- 1308年3月18日-02:00|ウクライナ| |||<死去>ガリチ公・ウァルイーニ公「ユリー・リウウ「イ」」
- 1308年3月18日-02:00|ウクライナ| |||<即位>ウァルイーニ公・ガリチ公・ルーツ公「アントン・ユリエウ「イ」」(~1323年アントン・レイの死により断絶、血縁関係のあったボレスワフが相続)
- 1308年3月18日-02:00|ウクライナ| |||<即位>ガリチ公・ルーツ公「レフ・ユリエウ「イ」」(~1323年死去)共同統治
- 1308年3月23日-09:00|日本|香川県善通寺市|徳治3年3月1日|金蔵寺、火災にあい、金堂・新御影堂・講堂以下の堂舎が焼失
- 1308年4月15日-01:00|アルゼリア| |||<即位>サイヤーン朝スルタン「アフマド・ハンム1世」(~13180722暗殺される)

1330迄 (1388件)

- 1308年4月16日-01:00|ドイツ| |||<死去>ハムブルク伯「ウイヘルム1世」
- 1308年4月16日-01:00|ドイツ| |||<就任>ハムブルク伯「アドルフ9世」(~13480403死去)
- 1308年5月1日-01:00|ドイツ/オーストリア/イタリア/フランス/スイス| |||<死去>ドイツ王・イタリア王・ブルグント王・オーストリア公・シュターアマルク公「アルブレヒト1世」甥ヨハン・ハインリッヒによって暗殺される/52歳
- 1308年5月1日-01:00|ドイツ/オーストリア| |||<即位>ドイツ王・シュターアマルク公「フリードリヒ3世」兼オーストリア公「フリードリヒ1世美王」(~13300113死去)、オーストリア公・シュターアマルク公「レオポルト1世」(共同統治~13260228死去)
- 1308年7月18日-09:00|日本| ||徳治3年6月30日|幕府、興福寺衆徒の強訴を認め、佐々木頼綱を尾張へ、僧仙海を三河へ流罪とする
- 1308年7月28日 00:00|モロッコ| |||<死去>マリーン朝スルタン「アブー・サーヒト・アミール」
- 1308年7月28日 00:00|モロッコ| |||<即位>マリーン朝スルタン「アブー・アル＝ラビ・スライマーン」(~13101123死去)
- 1308年7月30日-09:00|朝鮮| ||高麗・至大1年7月13日|<死去>高麗王「忠烈王」
- 1308年8月20日-09:00|日本| ||徳治3年8月4日|<辞任>鎌倉幕府第8代将軍「久明親王」帰京
- 1308年8月26日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|徳治3年8月10日|<就任>鎌倉幕府第9代将軍「守邦親王」
- 1308年9月10日-09:00|日本| ||徳治3年8月25日|<死去>94代「後二条天皇」24歳(誕生:弘安8(1285)0202)
- 1308年9月11日-09:00|日本| ||徳治3年8月26日|<就任>摂政「九条師教」(~延慶元年11月10日)
- 1308年9月11日-09:00|日本| ||徳治3年8月26日|<踐祚>95代「花園天皇」(11月16日即位式~13180226)
- 1308年9月13日-09:00|朝鮮| ||高麗・至大1年8月28日|<即位>高麗王「忠宣王」(~13130420退位)
- 1308年10月1日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 副王「ヒアース・ド・キヤーストン」(~13090515)
- 1308年10月5日-02:00|ギリシャ| |||<死去>アテネ公「キー2世」
- 1308年10月5日-02:00|ギリシャ| |||<就任>アテネ公「ゴージェイ5世」(~13110315死去)
- 1308年11月8日 00:00|イギリス| |||<死去>スコットランド 人の神学者「トマス・スコトゥス」(誕生1274年)
- 1308年11月11日-01:00|ドイツ| |||<死去>ホシュタイン＝セーゲベルク伯「アドルフ5世ホーメラーン」
- 1308年11月22日-09:00|日本| ||延慶1年10月9日|延慶に改元
- 1308年11月27日-01:00|ドイツ/ポーランド| |||<死去>ブランデンブルク＝シュテンダール辺境伯「オットー4世」兼下ラウジッツ辺境伯「オットー1世」
- 1308年11月27日-01:00|ドイツ/イタリア/フランス/オーストリア| |||<就任>神聖ローマ帝国宰相「マインツ大司教ヘーター・フォン・アスペルト」(1回目~13090106)
- 1308年11月27日-01:00|ドイツ/ポーランド| |||<就任>ブランデンブルク＝シュテンダール辺境伯・下ラウジッツ辺境伯「ヴァルデマル」コンラートの息子(⇒13170326ブランデンブルク辺境伯・下ラウジッツ辺境伯~13190814死去)
- 1308年11月27日-01:00|ドイツ/イタリア/フランス/スイス| |||<即位>ドイツ王・イタリア王・ブルグント王「ハインリヒ7世」(⇒13120629、神聖ローマ帝国皇帝)
- 1308年12月16日-07:00|ベトナム| ||大越・興隆16年間11月3日|<死去>大越・上皇「仁宗」
- 1308年12月22日-09:00|日本| ||延慶1年11月10日|<就任>摂政「鷹司冬平」(~応長元(1311)年3月15日)
- 1309年-08:00|インドネシア| |||<死去>マジャパヒト王国国王「ウジジャヤ」
- 1309年-08:00|インドネシア| |||<即位>マジャパヒト王国国王「ジヤカハラ」(~1328年、一貴族に暗殺される)
- 1309年-05:30|インド| |||<建国>ウムラウ国
- 1309年-05:30|インド| |||<即位>パンデヤ朝君主「Sundara Pandyan4世」(~1327年)、「Vira Pandyan4世」(~1345年)
- 1309年-05:30|インド| |||インドのパンデヤ朝で王位継承戦争が勃発
- 1309年-05:30|インド| |||ヤダヴァ朝がマリク・カリフに服属
- 1309年-05:00|カザフスタン/キルギス/タジキスタン/ウズベキスタン| |||<死去>オルダ・ウルス・ハン「ハヤン」
- 1309年-05:00|カザフスタン/キルギス/タジキスタン/ウズベキスタン| |||<即位>オルダ・ウルス・ハン「サジブカ」(~1315年死去)
- 1309年-04:00|ロシア| |||<即位>スズダリ公「アレクサンドル・ウアシエヴィチ」(~1332年)
- 1309年-02:00|トルコ| |||<死去>イスファンデイヤリス 君主「スレイマン1世パシヤ」
- 1309年-01:00|イタリア| |||<就任>カラブリア公(ポリア王の推定相続人の称号)「カルロロベルト1世の長男」(~13281109死去)
- 1309年-01:00|チュニジア/アルジェリア| |||<即位>ハフス朝アミール「アブー・ハカル1世アル＝シャーヒト」(~同年)⇒「ハーリド1世アル＝ナシル」(~1311年)
- 1309年 00:00|チャノル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ガーンジー - 島副守護者「Massey de la Court」(~同年)
- 1309年 00:00|チャノル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー - 島副守護者「Pierre de Petitfeu」(~同年)⇒「Drouet de Barentin」(~1319年死去)
- 1309年1月12日-09:00|日本| ||延慶1年12月|<任命>六波羅探題南方・丹波国守護「北条貞房(大仏流)」(~延慶2(1309)年12月2日)
- 1309年1月19日-09:00|日本|沖縄県|元・至大1年12月8日|<死去>琉球国王「大成」
- 1309年1月19日-09:00|日本|沖縄県|元・至大1年12月8日|<即位>琉球国王「英慈」(~13131010(皇慶2年9月20日)死去)
- 1309年1月21日-01:00|イタリア| |||<就任>マントヴァのガビーターノ・デル・ポポロ「リナルド・ポナコルシ」(~13280816)
- 1309年2月19日-01:00|ポーランド/ドイツ| |||<死去>ポズナン＝ヴオルカスト公「ボギスワフ4世」
- 1309年2月19日-01:00|ポーランド/ドイツ| |||<就任>ポズナン＝ヴオルカスト公「ヴァルティスワフ4世」(~13260801死去)
- 1309年3月9日-01:00|フランス/パチカン| |||ローマ教皇クレメンス5世と教皇庁がアヴィニョンに移される/以後70年間、教皇庁はアヴィニョンに置かれる
- 1309年3月14日-01:00|スペイン| |||<即位>ガラタ王国アミール「ナシル」(~13140208退位)
- 1309年3月14日-01:00|スペイン| |||<退位>ガラタ王国(ナシル朝)アミール「ムハンマド3世」
- 1309年4月-02:00|エジプト/シリア/アラブ| |||<即位>ハリー朝スルタン「ルクン＝アディン・ハインス2世」(~13100305)

1330迄 (1388件)

- 1309年5月5日-01:00|イタリア| |||<即位>カプリア公「カルロ」の息子(~13280909死去)
1309年5月5日-01:00|イタリア/フランス| |||<即位>ナポリ王「ロベルト」兼プロヴァンス伯「ロベール」(~13430120死去)
1309年5月16日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事「ジョン・ド・ウォーガン卿」(2回目~13140619)
1309年7月29日-01:00|アンドラ| |||<就任>アンドラ公国共同大公「ウルヘルム教レモン・トレバ」(~13260512)
1309年8月15日-02:00|ギリシャ/イスラエル| |||ロードス島はエルサレムの聖ヨハネ・ホスピター騎士団におさえられた
1309年9月12日-01:00|ジブラルタル/スペイン| |||ジブラルタルはカスティリアが占領(~13330617)
1309年10月4日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至大2年9月|元が至元鈔の五倍の至大銀鈔を発行
1309年10月20日-06:30|ミャンマー| |||<建国>ピンヤ王国(~1364年9月)
1309年11月-02:00|ラトビア/エストニア/ドイツ| |||<就任>リヴァニア騎士団団長「ゲルハルト・フォン・ホルク」(~1322年)
1309年12月3日-01:00|ポーランド| |||<死去>オレシツァ公「ウグワフ公「ハンリ」3世」
1309年12月3日-01:00|ポーランド| |||<就任>オレシツァ公「ハンリ」4世」(~1312年)、「コント」1世」(~1313年)、「ホレスワフ」(~13210423死去)共同統治
1309年12月3日-01:00|ポーランド| |||<就任>ウグワフ公「Przemko」2世」(~13310111)
1310年-05:45|ネパール| |||<即位>マ王国「Jayananada Deva」(~1320年)
1310年-05:30|スリランカ| |||<即位>ダンパテニヤ王国国王「Bhuvanaikabahu」2世」Buvaneka Bahu」1世の息子/Parakrama Bahu」3世の従兄弟(~1325年)
1310年-05:30|インド| |||マリク・カーフルがカーカチヤ朝とホイヤ朝の首都を攻略
1310年-05:00|ウズベキスタン| |||<即位>チャグタイハン国ハン「エセン・ブカ」の子(~1318年)
1310年-03:30|イラン| |||<死去>ハバント朝太守「Shahriyar」5世」
1310年-03:30|イラン| |||<即位>ハバント朝太守「Shah-Kaykhusraw」(~1328年死去)
1310年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンテリア公「ニコロ・サヌト」(~1312年)
1310年-02:00|エストニア/デンマーク| |||<就任>デンマーク・エストニア総督「ヨハネス・カヌ」(修道女)」(~同年)
1310年-02:00|ルーマニア| |||<就任>ワキア総督・領主「ハサフ」1世」(~1352年死去)
1310年-02:00|シリア・アラブ| |||<即位>アイユーブ朝(ハマー)第7代アミール「アルムアイヤド・アブールフィダール」(~13311027死去)
1310年-01:00|フランス| |||<死去>シャトル伯「John」
1310年-01:00|クロアチア| |||<就任>スラヴォニア全土のハン「スチパン・ハボニッチ」(~1316年)
1310年-01:00|ポーランド| |||<即位>チェルスク・ワルシャワ公「トロデン」1世」(~13410313死去)
1310年-01:00|イタリア| |||<即位>トレント司教公「Henry」3世」(~1336年)
1310年-01:00|ポーランド| |||<即位>ワルシャワ公「トロデン」1世」マゾフシ公「ホレスワフ」2世の息子(~13410313死去)
1310年 00:00|イギリス| |||<就任>ソールズベリ女伯・リンカン女伯「アリス・ド・レイシー」(1322. 12ソールズベリ女伯剥奪~13481002死去)
1310年 00:00|マン島/イギリス| |||<就任>マン島知事「Gilbert Makaskill」(1期目~1312年)
1310年 00:00|マリ| |||<即位>マリ帝国マンサ「Abubakari」2世」(~1312年)
1310年1月3日-09:00|日本| ||延慶2年12月2日|<死去>北条貞房(38歳)六波羅探題南方
1310年2月1日-09:00|日本| ||延慶3年|<任命>信濃国守護「北条基時」(~不明、次に仲時が就任~1332年)
1310年2月1日-09:00|日本| ||延慶3年|<任命>豊前国守護「北条政顕」(~不詳)
1310年3月5日-02:00|エジプト/シリア・アラブ| |||<復位>バリー朝スルタン「ナシール・ムハンマド」(3期目~13410607死去67歳)
1310年4月1日-09:00|日本|香川県善通寺市|延慶3年3月|善通寺蔵銅造阿彌陀如来立像、鑄造
1310年4月13日-06:30|ミャンマー| |||<即位>ミンサイン王「ヤサティンヤン/ティハトカ」(~13130207以前)
1310年5月12日-01:00|フランス| |||「タンブル騎士団」の信者54人が火刑に処される
1310年5月25日-01:00|オーストリア/スロベニア/イタリア| |||<死去>ケルテン公「オット」3世」兼チロル伯「オット」
1310年6月-01:00|ルクセンブルグ| |||<就任>ルクセンブルク伯「ヨハン」1世」(~13460826没)
1310年6月5日-02:00|キプロス| |||<死去>キプロス総督「アマウリート・ルシヤン」
1310年6月5日-02:00|キプロス| |||<就任>キプロス総督「エメリット・リュジニヤン」(~8. 27)
1310年6月14日-01:00|イタリア| |||ヴェネツィア共和国元首ピエトロ・グラティニコによる改革に反発するクーデターが発生(失敗)、以後共和国の政治は事実上の寡頭政に移行
1310年7月22日-09:00|日本| ||延慶3年6月25日|<任命>六波羅探題北方・山城・播磨国守護「北条貞顕(金沢流)」(~正和3(1314)年11月→連署→執権)
1310年8月15日-02:00|ギリシャ/キプロス| |||聖ヨハネ騎士団はロードス島を占領
1310年10月29日-01:00|ドイツ/オランダ| |||<死去>クレフェ伯「オット」
1310年10月29日-01:00|ドイツ/オランダ| |||<就任>クレフェ伯「デイトリヒ」8世」(~13470707死去)
1310年10月30日-09:00|日本| ||延慶3年10月8日|<死去>じゅ子内親王(朔平門院)(24歳)伏見天皇の皇女
1310年11月23日 00:00|モロッコ| |||<死去>マリン朝スルタン「アブー・アルラビ・スライマン」
1310年11月23日 00:00|モロッコ| |||<即位>マリン朝スルタン「アブー・サイド・ウスマン」2世」(~1331年)
1310年11月27日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|延慶3年11月6日|鎌倉の大火:勝長寿院、法華堂など類焼
1310年12月3日-01:00|チェコ/ルクセンブルグ| |||<即位>ボヘミア王「ヤン・ルクンツ」ルスキ」(~13460826死去)兼ルクセンブルク伯・モラヴィア辺境伯(~1333年)神聖ローマ皇帝ハインリヒ7世の息子
1310年12月3日-01:00|チェコ/オーストリア/スロベニア| |||<廃位>ボヘミア王・ケルテン公・モラヴィア辺境伯「ジントリヒ・カリツァ」(~13350402死去)
1310年12月10日-01:00|ドイツ| |||<死去>下バイエルン公「シュテファン」1世」戦死
1310年12月10日-01:00|ドイツ| |||<即位>下バイエルン公「オット」4世」シュテファン」1世の次男(~13341214死去27歳)、「ハインリヒ」14世」シュテファン」1世の長男(~13390901死去33歳)オット」3世と共同統治

1330迄 (1388件)

- 1311年-08:00|インドネシア| |||<即位>スダガ王国マラジャ「Prabu Lingga Dewata/ Sang Mokteng Kikis」(~1333年)
- 1311年-07:00|タイ| |||<死去>ランナー王国マンレー朝国王「マンレーイ」ゴエンヤン王
- 1311年-07:00|タイ| |||<即位>ランナー王国マンレー朝国王「チャイソクラーム」(~1325年)
- 1311年-05:30|インド| |||<即位>ヤーダヴァ朝君主「ジャンカラデーヴァ(シンガナ3世)」(~1313年)
- 1311年-05:30|インド| |||ハーンティヤ朝がマリク・カーフルに侵略される
- 1311年-04:00|ジョージア| |||<死去>ゲルジア国王「ダビデ」8世
- 1311年-04:00|ジョージア| |||<即位>ゲルジア国王「ジョージ」6世(~1313年死去)
- 1311年-03:30|イラン| |||<即位>オムズ王「Ezzeddine Kordan Shah」(~1317年)
- 1311年-03:30|イラン| |||<即位>ハダスハニド朝君主「Shams al-Muluk Mohammad」(~1317年)
- 1311年-02:00|ギリシャ| |||ヒザンツ帝国に傭兵として雇われたアラゴンとカタルニャの騎士たちが反乱を起こし1390年頃までアテネ公国を支配
- 1311年-01:00|フランス| |||<就任>ホワティエ伯「Philip1世」(~1316年)
- 1311年-01:00|チュニジア/アルジェリア| |||<即位>ハフス朝アミール「ガカリヤ」1世アル・リヤニ(~1317年)
- 1311年-01:00|スペイン| |||<即位>マヨルカ王「サンチ」1世(~13240904)
- 1311年-01:00|ドイツ| |||下ハイルンでオットーの特権付与状を発布
- 1311年-01:00|カアチフ/ハンガリー| |||ハンガリーによるダルマチアのザラ支配(~1313年9月)
- 1311年 00:00|アイルランド| |||<死去>トモント王「ドンチャド・マック・トイルデルハッハ・オ・ブリアン」
- 1311年 00:00|アイルランド| |||<即位>トモント王「デアムイト・クレイフ・オ・ブリアン」ドンチャド・マック・ブライアン・ルト・オ・ブリアンの息子(~1313年没)
- 1311年1月6日-01:00|イタリヤ| |||<再任>ミラノ・シニョレ「マッテオ」1世・ウイスコンティ(~13220624死去)
- 1311年1月6日-01:00|イタリヤ| |||<即位>イタリヤ王(ルゼンブルグ朝)エンリコ7世[神聖ローマ皇帝]遠征を経てイタリヤ王位の兼務を復活させる(~13130824)
- 1311年1月6日-01:00|イタリヤ| |||<退任>ミラノ・シニョレ「グイード・デッラ・トッレ」
- 1311年1月14日-09:00|日本| ||延慶3年12月24日<死去>近江国守護「六角頼綱」(次に子の時信が継ぐ~1333年)
- 1311年1月21日-09:00|日本| ||延慶4年<任命>若狭守護「北条高時」(~元弘3(1333)年5月22日自刃)
- 1311年1月21日-09:00|日本|和歌山県海南市|延慶4年|この年、紀伊国長保寺本堂・多宝塔できる
- 1311年1月27日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至大4年1月8日<死去>元第3代皇帝「武宗カシヤン」/年31
- 1311年2月 00:00|イギリス| |||<死去>リカンオン伯「ハンリー・ド・レイシー」
- 1311年2月 00:00|イギリス| |||<就任>リカンオン伯「アリス・ド・レイシー」ソールズベリー女伯(~13481002死去)
- 1311年2月19日-09:00|日本|愛知県名古屋市中区|延慶4年2月|鉄舟、尾張国長栄寺に懸仏を施入
- 1311年3月-06:30|ミャンマー| |||<死去>ペーグー王「クン・ロー」
- 1311年3月15日-02:00|ギリシャ| |||<死去>アテネ公「ゴティエ」5世殺された
- 1311年3月15日-02:00|ギリシャ| |||<即位>アテネ公(アルゴス・ナフプリオ)「ジャンヌ・ド・シチエオン」ゴティエ5世の妻(~13540116死去)、「ゴティエ」6世「ゴティエ」5世の息子(~13560919)
- 1311年3月15日-02:00|ギリシャ/スペイン| |||<即位>アテネ公「ロベリア・デ・スロー」(~1312年退位)
- 1311年4月4日-09:00|日本| ||延慶4年3月15日<就任>関白「鷹司冬平」(~正和2(1313)年7月12日)
- 1311年4月7日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至大4年3月18日<即位>元第4代皇帝「仁宗アルムルタ」(~延祐7年1月21日1320年3月1日)タルバラの次男。武宗カシヤンの弟
- 1311年4月10日-06:30|ミャンマー| |||<即位>ペーグー王「ソウ・ウー」(~1323年9月没)
- 1311年4月28日-09:00|日本|愛知県名古屋市中区|延慶4年4月9日|無住、聖財集を著す
- 1311年5月17日-09:00|日本| ||応長1年4月28日|應長に改元
- 1311年5月29日-01:00|スペイン| |||<死去>マヨルカ王「ジャム」2世兼サルタニャ伯「ハイ」2世
- 1311年5月29日-01:00|スペイン| |||<就任>サルタニャ伯「サンチ」2世(~13240904死去)
- 1311年6月9日-01:00|イタリヤ| |||<公開>シエナ大聖堂壁画「マエスタ」(ルネサンス初期を代表するフオンセニャの絵画)
- 1311年6月13日-01:00|ドイツ/イタリヤ/オーストリア/チェコ| |||<即位>ドイツ王・ブルグント王「ハインリヒ」7世⇒神聖ローマ皇帝(~13130824死去)
- 1311年8月13日-01:00|イタリヤ| |||<死去>ヴェネツィア共和国ドージェ(元首)「ピエトロ・グラーネニコ」殺される
- 1311年8月23日-01:00|イタリヤ| |||<就任>ヴェネツィア共和国ドージェ(元首)「マリノ・ツォルジ」(~1312年)
- 1311年9月8日-09:00|日本| ||応長1年7月25日<任命>六波羅探題南方・丹波国守護「北条時敦(政村流)」(~正和4(1315)年6月27日北方へ)
- 1311年10月 00:00|モロッコ/チュニジア| |||イブン・アッリヤニーがチュニスを占領
- 1311年11月3日-09:00|日本| ||応長1年9月22日<死去>10代鎌倉幕府執権「北條師時」[1275年生~](享年36)
- 1311年11月23日-09:00|日本| ||応長1年10月3日<就任>11代鎌倉幕府執権「北條宗宣」(~正和1(1312)年5月29日)
- 1311年12月6日-09:00|日本| ||応長1年10月26日<死去>駿河・伊豆国守護「北条貞時」(次に高時が就任~正慶2(1333)年5月22日自刃)
- 1311年12月21日-09:00|日本|京都府宇治市|応長1年11月11日|宇治橋が焼失
- 1312年-06:30|ミャンマー| |||<死去>ペーガン王朝君主「ソウニツ」
- 1312年-05:00|ガフスタン/キルギス/タジキスタン/ウズベキスタン/トルクメニスタン| |||<死去>ジョチ・ウルス・ハン「トクタ」
- 1312年-03:30|イラン| |||<就任>イルハン朝宰相「Taj-al-Din Ali-Shah Jilani」(~1324. 6)
- 1312年-02:00|ギリシャ/イタリヤ| |||<就任>ヴェネツィアのカンデリア公「エンリコ・ダントロ」(~1313年)

1330迄 (1388件)

- 1312年-02:00|エストニア/デンマーク| |||<就任>デンマーク・エストニア総督「アコ・サキシソ」(~1313年)
- 1312年-02:00|ギリシャ/スペイン| |||<即位>アテネ公「マンフレド」(~13171109死去)、「ベレンゲル・エストニョール」(~1317年)
- 1312年-02:00|トルコ| |||<即位>アルトゥク朝スルタン「アリー・アルプ・イマド」(~1364年)
- 1312年-02:00|トルコ| |||<即位>カラマニ朝ベイ「Bedreddin1世Ibrahim」(~1333年)
- 1312年-02:00|ルワンダ| |||<即位>ルワンダ王国ムツィ「ルガンス1世ブウインバ」(~1345年)
- 1312年-02:00|ギリシャ/スペイン| |||<退位>アテネ公「ロハリオ・テスロー」
- 1312年-01:00|ポーランド| |||<再任>レクニツァ公「ホレスワ3世寛大公」(~1342年)
- 1312年-01:00|ベルギー| |||<死去>リエージュ公「ハールのティボ」
- 1312年-01:00|クロアチア/ハンガリー| |||<就任>クロアチアとダルマチア・ハン「ムラテン2世シュビッチ」(~1322年)
- 1312年-01:00|ドイツ| |||<就任>ハッハルクザウゼンベルク辺境伯「ハインリヒ」(~1318年死去)
- 1312年-01:00|オーストリア/ドイツ| |||<即位>下バイン公「ハインリヒ15世」(~13330618)ハインリヒ14世、オット4世と共同統治
- 1312年-01:00|フランス| |||仏王フィリップ4世がテンプル騎士修道会を解散
- 1312年 00:00|イギリス| |||<就任>初代マリ伯「トマス・ランドルフ」(~13320720死去)
- 1312年 00:00|マン島/イギリス| |||<就任>マン島知事「Henri de Beaumont」(2期目~1313年)
- 1312年 00:00|マリ| |||<即位>マリ帝国マナ「マナ・ムサ1世」(~1337年死去)
- 1312年1月9日-07:00|ベトナム| ||大越・興隆19年12月|大越の英宗ががチャンパに侵攻、王族を連行(~1312)
- 1312年2月8日-08:00|中国/モンゴル| ||元・皇慶1年|中国で水力紡績機の実験が開始
- 1312年2月8日-07:00|ベトナム| |||<即位>チャンパ王「ジヤ・シンハヴァルマン5世」(~1318年)
- 1312年2月8日-07:00|ベトナム| |||<廃位>チャンパ王「ジヤ・シンハヴァルマン4世」大越の英宗に捕らわれる
- 1312年2月8日-08:00|中国/モンゴル| ||元・皇慶1年1月1日|中国・元の仁宗ユルハルダが皇慶(-1313年)に改元
- 1312年3月10日-01:00|ポーランド| |||<死去>ピトム公「Kazimierz」
- 1312年3月10日-01:00|ポーランド| |||<就任>ピトム公「Siemowit」(~1316年)
- 1312年3月26日-01:00|デンマーク/ドイツ| |||<死去>シュレスヴィヒ公「ウアルテマー4世」
- 1312年3月26日-01:00|デンマーク/ドイツ| |||<即位>シュレスヴィヒ公「エリク2世」(~13250312死去)
- 1312年4月27日-09:00|日本| ||正和1年3月20日|正和に改元
- 1312年5月1日-01:00|ホースニア・ヘルツェゴビナ/ハンガリー| |||<死去>ホースニア・ハン「ホル1世シュビッチ・オブ・ブレイブル」
- 1312年5月5日-09:00|日本| ||正和1年3月28日|京極兼兼の玉葉和歌集が撰進される
- 1312年5月13日-01:00|フランス| |||<死去>ロレーヌ(ロートリンゲン)公「ティボ」-2世」
- 1312年5月13日-01:00|フランス| |||<即位>ロレーヌ(ロートリンゲン)公「フェリク4世」(~13280823退位)
- 1312年6月 00:00|イギリス| |||イングランド軍がスコットランドに侵入
- 1312年6月28日-09:00|日本|京都府京都市|正和1年5月23日|賀茂川・烏丸川洪水/六波羅門外に至り溺死者多い
- 1312年6月29日-01:00|ドイツ/イタリア/オーストリア/フランス/スイス| |||<即位>神聖ローマ皇帝「ハインリヒ7世」イタリア王・ブルグント王(~13130824死去)
- 1312年7月3日-01:00|イタリア| |||<退任>ヴェネツィア共和国ドージェ(元首)「マリノ・ツォルツ」
- 1312年7月6日-09:00|日本| ||正和1年6月2日|<就任>12代鎌倉幕府執権「北條熙時」(~正和4年7月12日)
- 1312年7月11日-01:00|フランス| |||「フロントル伯」、フランス王フィリップ4世にフランス北部のリール、トゥエを割譲
- 1312年7月13日-01:00|イタリア| |||<就任>ヴェネツィア共和国ドージェ(元首)「ジョヴァンニ・ゾランツォ」(~1328年)
- 1312年7月16日-09:00|日本| ||正和1年6月12日|<死去>北条宗宣(54歳)鎌倉幕府第11代執権
- 1312年8月7日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事代行「エドマント・ハトラー卿」(~13140618)
- 1312年8月23日-01:00|イタリア| |||<就任>エスタ辺境伯「ヘルトルド1世」(⇒1317年エスタ辺境伯・フェラー侯~1343年死去)、「アツツォ9世」(⇒1317年エスタ辺境伯・フェラー侯~13180624死去)
- 1312年8月27日-01:00|フランス| |||<死去>ブルターニュ公「アルテュール2世」50歳
- 1312年8月27日-01:00|フランス| |||<即位>ブルターニュ公「ジャン3世幸運公」アルテュール2世とマリ・ド・リモージュの長男(~13410430死去55歳)
- 1312年9月7日-01:00|スペイン| |||<死去>レオン国王・カスティリア国王「フェルナンド4世召集王」
- 1312年9月7日-01:00|スペイン| |||<即位>レオン国王・カスティリア国王「アルフォンソ11世正義王」(~13500326死去)
- 1312年9月9日-01:00|ドイツ| |||<死去>下バイン公「オット3世」
- 1312年9月9日-01:00|ドイツ| |||<死去>下バイン公「ハインリヒ15世」オット3世の息子(~13330618死去)
- 1312年9月23日-01:00|イタリア| |||ザラガベネツィア支配下に入る
- 1312年10月13日-01:00|チェコ| |||<就任>ホヘミア摂政「マインツ大司教アスルトのピーター」(1回目~13150514)、「ヘンネベルク伯ヘルトルト」(~13150513)
- 1312年10月27日-01:00|ベルギー/オランダ| |||<死去>ブラバント公・リンブルフ公「ジャン2世」
- 1312年10月27日-01:00|ベルギー/オランダ| |||<即位>ブラバント公・リンブルフ公「ジャン3世」(~13551205死去)
- 1312年10月28日-01:00|ドイツ| |||<死去>ホルシュタイン＝プロレン伯「ゲルハルト2世盲目伯」
- 1312年10月28日-01:00|ドイツ| |||<就任>ホルシュタイン＝プロレン伯「ゲルハルト4世」ゲルハルト2世の息子(~1323年死去)、「ヨハン3世寛大伯」ゲルハルト4世の異母弟(~1316年)共同統治
- 1312年11月2日-09:00|日本|滋賀県大津市|正和1年10月3日|横川中堂焼失
- 1312年11月13日 00:00|イギリス| |||<就任>10代チェスター伯「エドワード・アンジュー」先代の長男(~13270125イングランド王エドワード3世)
- 1312年11月23日 00:00|ポルトガル| |||<死去>パルティボ公「Martim Gil de Riba de Vizela」
- 1312年12月5日-09:00|日本|愛知県西尾市|正和1年11月7日|三河国愛宕堂の阿弥陀如来坐像が造立される
- 1312年12月13日-01:00|ドイツ/スイス| |||<死去>シュヴァーベン大公「ヨーハン」

1330迄 (1388件)

- 1313年-05:30|インド | |||<死去>ヤダウァ朝君主「ジャンカテ-ウァ(シガナ3世)」マリカゲテ-ウァギリに再侵略しを殺害
- 1313年-05:30|インド | |||<即位>ヤダウァ朝君主「ハラハ-ラテ-ウァ」ラマチャンドラの娘婿(~1317年)
- 1313年-05:00|カザフスタン/キルギス/トルクメニスタン/ウズベキスタン/タジキスタン | |||<即位>ジヨチ-ウルス-ハン「ウズベク-ハン」モンケ-テムルの子トコルチの子(~1341年死去)
- 1313年-04:00|ジョージア | |||<死去>ゲルジア国王「ジョージ6世」
- 1313年-04:00|ロシア | |||<即位>スモレンスク公「イヴァン-アレクサンドロヴィチ」(~1359年死去)
- 1313年-02:00|ギリシャ | |||<就任>アカイア公「マオト-エノ」(~1318年)、「ルイ-ド-ブルゴニユ」(~1316年)
- 1313年-02:00|ギリシャ/イタリア | |||<就任>ヴェネツィアのカンテ-リア公「マリノ-パドエル」(~1315年)
- 1313年-02:00|エストニア/デンマーク | |||<就任>デンマーク-エストニア総督「ハインリッヒ-ヘルナウアー」(~1314年)
- 1313年-02:00|トルコ | |||<即位>サルハン侯国ヘイ「Saruhan-ヘイ」(~1346年)
- 1313年-02:00|トルコ | |||<即位>ラテン帝国皇帝「フィリップ2世」カトリ-ヌ2世の夫(~13311226死去)
- 1313年-02:00|エジプト/シリア-アラブ | |||スルタン-ナ-スィルがシリア-エジプトの検地を実施
- 1313年-01:00|スペイン | |||<死去>ポンセ-リアス伯「Ponc5世」
- 1313年-01:00|スペイン | |||<就任>ポンセ-リアス伯「Ponc6世」(~1322年)
- 1313年-01:00|ベルギー | |||<就任>シ-伯「Louis6世」ル-ス伯Louis4世(~13360119死去)
- 1313年-01:00|ベルギー | |||<就任>リエ-ジュ公「アトルフト-ラ-マルク」(~13441103死去)
- 1313年-01:00|ウクライナ/イタリア | |||ヴェネツィアによるダルマチアのザラ/ザダル支配(~1345年)
- 1313年 00:00|アイルランド | |||<死去>トモント王「デアムイト-クレイフ-オブ-リアン」
- 1313年 00:00|マン島/イギリス | |||<就任>マン島知事「Gilbert Makaskill」(2期目)
- 1313年 00:00|アイルランド | |||<即位>トモント王「ト-ンチャド-マック-ド-ナル-オブ-リアン」ト-ナル-マック-ブ-ライアン-ル-アト-オブ-リアンとマレアト-ニク-マスカ-メの息子(~1317年没)
- 1313年1月27日-08:00|中国/モンゴル | ||元-皇慶2年|この年、元で王禎「農書」完成
- 1313年1月28日-09:00|日本 | ||正和2年|<任命>和泉国守護「北条熙時」(~正和4(1315)年7月18日死去、次に茂時が就任~1333年)
- 1313年1月28日-09:00|日本|岐阜県多治見市|正和2年|夢窓国師が虎溪山永保寺創建
- 1313年2月7日-06:30|ミャンマー | |||<即位>ピ-ンヤ王「ティハトウ」(~1325年2月)
- 1313年3月1日-09:00|日本|京都府京都市伏見区|正和2年2月4日|法琳寺太元堂焼失
- 1313年4月5日-09:00|日本|香川県三豊市|正和2年3月9日|三野郡本山寺二天像、開眼供養
- 1313年4月18日-09:00|日本|長野県長野市|正和2年3月22日|善光寺が炎上
- 1313年4月20日-01:00|ポーランド | |||<死去>マゾフシエ(フ-ウツク)公「ホ-レスワ2世」
- 1313年4月20日-01:00|ポーランド | |||<即位>フ-ウツク公「ウ-アツク1世」マゾフシエ公ホ-レスワ2世の息子(~13360523死去)
- 1313年4月20日-01:00|ポーランド | |||<即位>ラウ-ア公「シエモ-イト2世」マゾフシエ公ホ-レスワ2世の息子(~13450218死去)
- 1313年4月20日-09:00|朝鮮 | ||高麗-至大6年3月24日|<即位>高麗王「忠肅王」(~13300218退位)
- 1313年4月20日-09:00|朝鮮 | ||高麗-至大6年3月24日|<退位>高麗王「忠宣王」
- 1313年5月14日-01:00|ポーランド | |||<死去>ホ-レ公「ホ-ルコ1世」
- 1313年5月14日-01:00|ポーランド | |||<就任>ホ-レ公「ホ-レスワ-ヒ-エルグ-オト-ヌイ」(~1316年)、「アルベルト」(~1323年)、「ホ-ルコ2世」(~13560621死去)共同統治
- 1313年6月12日 00:00|マン島/イギリス | |||マン島をスコットランド王が統治(~12.20)
- 1313年7月30日-09:00|日本 | ||正和2年7月7日|<死去>鷹司基忠(67歳)関白、太政大臣
- 1313年8月4日-09:00|日本|京都府京都市|正和2年7月12日|<就任>関白「近衛家平」(~正和4年9月21日)
- 1313年8月23日-09:00|日本|石川県羽咋市|正和2年8月|加賀大乘寺2世瑩山が曹洞宗永光寺を鹿島郡酒井保に創建
- 1313年8月24日-01:00|ドイツ/イタリア/オーストリア/フランス/スイス | |||<死去>神聖ローマ皇帝-イタリア王-ブルグント王「ハインリッヒ7世」ホ-リへの遠征の途中(誕生1275年)
- 1313年8月24日-01:00|ドイツ/イタリア/オーストリア/フランス | |||<就任>神聖ローマ帝国宰相「マイツ大司教ヘ-ター-フォン-アスペルト」(2回目~13141020)
- 1313年8月24日-01:00|ルクセンブルク | |||<就任>ルクセンブルク伯「ヨ-ハン」ハインリッヒ7世の息子-ホ-ヘミア王(~13460826死去)
- 1313年10月10日-09:00|日本|沖縄県|正和2年9月20日|<死去>琉球国王「英慈」
- 1313年10月10日-09:00|日本|沖縄県|正和2年9月20日|<即位>琉球国王「玉城」(~13360422(至元2年3月11日)死去)
- 1313年11月3日-09:00|日本|京都府京都市|正和2年10月14日|<院政>後伏見上皇
- 1313年12月6日-08:00|中国/モンゴル | ||元-皇慶2年11月18日|元で初めて公式に科挙を実施
- 1313年12月20日 00:00|マン島 | |||<就任>マン王「Thomas Randolph」(1期目~1317.7)
- 1314年-05:30|インド | |||ケ-ララのラウ-イヴァルマン王がパ-ンテ-ヤ朝に侵入
- 1314年-04:00|ロシア | |||<死去>第3代ヘ-ロセ-ロ公「フォートル-ミハイロヴィチ」
- 1314年-04:00|ロシア | |||<就任>ウ-ゴ-ロト共和国ノゴ-ロト公「アヴァンシー-ダ-ニ-ロヴィチ」(~1315年)
- 1314年-04:00|ロシア | |||<即位>第4代ヘ-ロセ-ロ公「ロマン-ミハイロヴィチ」(~1339年)
- 1314年-04:00|ジョージア | |||<復位>ゲルジア国王「ジョージ5世」(~1346年死去)
- 1314年-03:30|イラン | |||<即位>ムサッファル朝スルタン「ムハ-リス-ツッ-イー-ムハンマド」(~1359年長男のシャー-シュジャーが反対派を結集して蜂起し、ムハンマドは捕らえられて盲目にされて廃位、イスファハーンに幽閉~13631201死去)
- 1314年-03:00|エチオピア | |||<死去>エチオピア帝国(ソモソ朝)皇帝「ウエテム-アラト」
- 1314年-03:00|エチオピア | |||<即位>エチオピア帝国(ソモソ朝)皇帝「アマタ-セヨ1世」(~1344年死去)
- 1314年-01:00|ポーランド | |||<再位>カヤウ-イ-イノウ-ロツワ公レシエク2世[2度目](~1324年)

1330迄 (1388件)

- 1314年-01:00|アンドラ| |||<死去>カシエ伯「Ermengol 10世」
- 1314年-01:00|フランス| |||<就任>メヌ伯「フィリップ」(~1328年)
- 1314年 00:00|イギリス| |||<就任>5代キャリック伯「エドワード・ブルス」先代の弟(1315年よりアイルランド上王~13181014死去)
- 1314年1月17日-09:00|日本| ||正和3年|<任命>尾張国守護「北条(名越)宗教」(~1333年)
- 1314年1月17日-09:00|韓国/朝鮮| ||高麗・至大7年|朝鮮が貢賦額の改定のため検地を行う
- 1314年1月17日-09:00|日本|岐阜県多治見市|正和3年|夢窓国師のために土地の豪族である土岐氏により永保寺観音堂できる
- 1314年2月7日-08:00|中国/モンゴル| ||元・延祐1年1月22日|元の仁宗が延祐(-1320年)と改元
- 1314年2月8日-01:00|モンテネグロ/セルビア| |||<死去>セータ大公「エラ(ヘレナンツェリナ)」
- 1314年2月8日-01:00|スペイン| |||<即位>グナタ王国ナスル朝アミール「イスマイル1世」(~13250707死去)
- 1314年2月8日-01:00|モンテネグロ/セルビア| |||<即位>セータ大公「ステファン・コンスタンティン」(~13220106)
- 1314年2月8日-01:00|スペイン| |||<退位>グナタ王国アミール「ナスル」
- 1314年2月28日-09:00|日本|京都府京都市|正和3年2月14日|洛外の尊勝寺・最勝寺焼ける
- 1314年3月-03:00|サウジアラビア| |||<復位>メッカ・シャリフ「アブー・アルカイト・ブン・アビドゥ・ヌマイ・イマート・アルデイン」(~6月)、「フマイド・ブン・アビドゥ・ヌマイ・イマート・アルデイン」(~1315年12月)
- 1314年3月1日-09:00|日本|愛媛県南宇和郡愛南町|正和3年2月15日|宇和郡御庄小林寺の知元、同寺に地藏菩薩像を安置
- 1314年3月18日-01:00|フランス| |||「タンブル騎士団」の最高幹部の総長ジャック・ト・モレとルマンディ管区長ジョワ・ド・シャルネの2人が、「異端」としてパリの「汚島」(1,4区)で火刑に処せられる/「タンブル騎士団」が消滅
- 1314年4月3日-07:00|ベトナム| ||大越・大慶1年3月18日|<譲位>陳朝(大越)皇帝「英宗」
- 1314年4月3日-07:00|ベトナム| ||大越・大慶1年3月18日|<即位>陳朝(大越)皇帝「明宗」(~13290315(開泰6年)譲位)大慶と改元(-1323)
- 1314年4月19日-09:00|日本|京都府京都市|正和3年閏3月4日|石清水八幡宮の神輿上洛し、強訴
- 1314年4月20日-01:00|バチカン| |||<死去>第195代ローマ教皇「クレメン5世」(誕生1264年)フランスのピニオンに教皇庁を移した教皇
- 1314年5月1日 00:00|ポルトガル| |||<就任>パルデ公「Pedro Afonso」ポルトガル王デニス1世の実子(~1350.5死去)
- 1314年6月19日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事「ゲルトン卿テオバルド・ド・ゲルトン」(~13150227)
- 1314年6月24日 00:00|イギリス| |||スコットランドのロバート・ブルスが、バノックバンの戦いでエドワード2世を破る
- 1314年7月11日-01:00|フランス| |||ケルトレの戦いフランス地方の支配を狙う仏王フィリップ4世の軍と市民・農民らからなる/市民軍が激突→市民軍が勝利
- 1314年9月3日-01:00|フランス| |||フランス王フィリップ4世と「フランドル伯」が、フランス北部のベルギー-国境マルケット・レ・リールで「マルケット会談」を行う/「フランドル伯」に、フランス東部のレテル(アルデンヌ県)・フランス中央部のヌヴェールを認める/フランス王は、フランス北部のリール・ドゥエイ・ベテュヌの3都市を領有することが決まる
- 1314年9月8日-09:00|日本|奈良県|正和3年7月28日|鎌倉幕府、大和国に地頭を設置
- 1314年10月19日-01:00|ドイツ| |||<即位>ドイツ対立王「フリードリヒ3世」(~13220923、ミュルドルフ近辺の戦いで大敗し捕虜となる)
- 1314年10月20日-01:00|ドイツ/イタリア| |||<即位>ドイツ王・イタリア王「ルートヴィヒ4世」ルドルフ1世の孫(⇒13280117、神聖ローマ帝国皇帝)
- 1314年11月10日-01:00|アンドラ| |||<就任>カシエ伯「アロン王アルフォンソ4世」(~13271020~1366年死去)
- 1314年11月29日-01:00|フランス| |||<死去>フランス王(カペー朝)「フィリップ4世端麗王」46歳/「フォンテーヌブロー宮殿」で(1268年~)
- 1314年11月29日-01:00|フランス| |||<即位>フランス王(カペー朝)「ルイ10世喧嘩王」フィリップ4世の子(~13160605死去)
- 1314年11月29日-01:00|フランス| |||<退任>シャンパニュ伯「ルイ」(フランス王ルイ10世)フランス王位に統合
- 1314年12月20日-09:00|日本| ||正和3年11月13日|朝廷が文殿雑訴法を定める
- 1315年-05:00|カザフスタン/キルギス/トルクメニスタン/ウズベキスタン| |||<死去>オルタ・ウルス・ハン「サングカ」
- 1315年-05:00|カザフスタン/キルギス/トルクメニスタン/ウズベキスタン| |||<即位>オルタ・ウルス・ハン「Ilbasan」(~1320年死去)
- 1315年-03:30|イラン| |||<即位>ヤスト・アタベク朝スルタン「ハージ・シャー・イブン・ユースフシャー」(~1319年)
- 1315年-03:00|ベラルーシ| |||<即位>ポロツク公「ヴァイニウス」(~1342年死去)
- 1315年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンテリア公「ファンティノ・ダントーロ」(~1317年)
- 1315年-02:00|ウクライナ/イタリア| |||カファはジェノヴァが支配
- 1315年-01:00|フランス| |||<死去>ブルゴニュ伯「ロベール」
- 1315年-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パライン「トモス・フィア・イシュトヴァーン・ポルチ・ネンペリ・ラット」(~1320年)
- 1315年-01:00|フランス| |||<就任>ブルゴニュ伯「ジャン2世」ロベールの妹(~13300121死去)、「フィリップ5世(フランス王)」ジャン2世の夫(~13220103死去)
- 1315年 00:00|アイルランド| |||<即位>アイルランド上王「エドワード・ブルス」(~13181014死去)
- 1315年2月5日-09:00|日本| ||正和4年|<任命>常陸国守護「宍戸時家」(~不詳)
- 1315年2月5日-09:00|日本|広島県尾道市|正和4年|この年、孔雀鎗金経箱(瀬戸田光明坊蔵)など成る
- 1315年2月5日-09:00|日本|広島県呉市|正和4年|この頃、木造観音菩薩立像(安浦観世音菩薩保存会蔵)成る
- 1315年2月5日-09:00|日本|和歌山県日高郡由良町|正和4年|この年、覚恵法灯国師像(紀伊国興国寺)を描く
- 1315年2月28日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事「エドワード・バトラ卿」(⇒13150901からキャリック伯爵~13170407)
- 1315年4月12日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|正和4年3月8日|<鎌倉正和4年の大火>子の刻(午前0時頃)、幕府の首

都鎌倉の港として栄えている和賀江港(材木座海岸)沿いの市街地から出火した炎が北上し、幕府の政務機関である政所(幕府の財政を扱う)、問注所(幕府の訴訟事務を扱う)をはじめ、將軍の御所、左馬権頭(典厩:北条高時)、相模守(熙時)、陸奥守(維貞)、相模左近大夫(貞視)、武蔵左近大夫(守時)など北条氏の歴々の邸宅、その他大名や小名が鎌倉出仕の際の宿舎を灰とした/幕府の宗社である鶴岡八幡宮の本宮(上宮)と若宮(下宮)などの社殿から、やや離れた山麓の鎌倉五山の一位である建長寺の堂塔、僧坊に至るまで焼けた/鎌倉の中心部のすべて3~4万戸ほどを廃墟にした

- 1315年5月9日-01:00|フランス| |||<死去>ブルゴニユ公「ユグ5世」
 1315年5月9日-01:00|フランス| |||<即位>ブルゴニユ公「ウート4世」(~13500403死去)
 1315年5月13日-01:00|ドイツ| |||<死去>シャウエンブルク伯・ホルシュタイン=ピンネブルク伯「アドルフ6世」
 1315年5月13日-01:00|ドイツ| |||<就任>シャウエンブルク伯・ホルシュタイン=ピンネブルク伯「アドルフ7世」(~13541009死去)
 1315年5月14日-01:00|チエコ| |||<就任>ホミア摂政「フアラ司教、トラツツェのヨハネ」(~8月)
 1315年5月15日-06:30|ミャンマー| |||<即位>ザガイン王「ソウユン」建国(~13270205)
 1315年6月27日-01:00|ポーランド| |||<死去>チェシ公「ミェシュコ1世」
 1315年6月27日-01:00|ポーランド| |||<就任>ポソフィエンチム公「ウラディスワフ1世」(~13240515死去)
 1315年6月27日-01:00|ポーランド| |||<就任>チェシ公「カジミェシュ1世」(~13580929死去)
 1315年7月28日-09:00|日本| ||正和4年6月27日|<任命>六波羅探題北方・山城・摂津・播磨国守護「北条時敦(政村流)」(~元応2(1320)年5月24日)
 1315年8月-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「ミクロシュ・メツェシ」(~1318年6月)
 1315年8月9日-09:00|日本| 神奈川県鎌倉市|正和4年7月9日|建長寺焼失
 1315年8月11日-09:00|日本| ||正和4年7月11日|<就任>13代鎌倉幕府執権「北條基時」(~正和4年11月20日)
 1315年8月12日 00:00|イギリス| |||<死去>ウリック伯「ガイ・ド・ビーチャム」
 1315年8月18日-09:00|日本| ||正和4年7月18日|<死去>鎌倉幕府12代執権・和泉国守護「北条熙時」[1279年生~](享年36)
 1315年8月18日-09:00|日本| ||正和4年7月18日|<就任>和泉国守護「北条茂時」(~1333年)
 1315年9月30日-09:00|日本| ||正和4年9月2日|<任命>六波羅探題南方・丹波国守護「北条維貞(大仏流)」(~元亨4(1324)年8月17日→評定衆→連署)
 1315年10月20日-09:00|日本| ||正和4年9月22日|<就任>関白「鷹司冬平」(~正和5年8月23日)
 1315年10月29日-09:00|日本| ||正和4年10月|<辞任>鎮西探題「北条[金沢]政顕」子の種時が代行(~正和5(1316)年12月辞任)
 1315年11月2日-09:00|日本| 愛媛県宇和島市|正和4年10月5日|仏木寺木造弘法大師坐像が造られる
 1315年11月15日-01:00|スイス/オーストリア| |||スイス独立同盟が、モルガルトンの戦いでハプスブルク家のアルブレヒトの息子フリートリヒの軍を破る
 1315年12月-03:00|サウジアラビア| |||<復位>メッカ・シャリフ「ルマイタ・ブン・アヒド・ヌマイヤト・アル＝デイン」(~1318年3月)
 1315年12月9日-01:00|スイス| |||スイスで、1291年の「永久同盟」が更新され「モルガルトン同盟」が締結される
 1315年12月13日-01:00|アンドラ| |||<死去>アンドラ公国共同大公「フォウ伯爵ガストン1世」
 1315年12月13日-01:00|アンドラ| |||<就任>アンドラ公国共同大公「フォウ伯爵ガストン2世」(~13430926死去)
 1316年-04:00|ロシア| |||<即位>ロストフ公「ユリー・アレクサンドロウイチ」(~13200530死去)
 1316年-03:30|イラン| |||<就任>イルハン朝宰相「Ghiyas-al-din Mohammad Ali-Shahi」(~?)
 1316年-02:00|リトアニア| |||<死去>リトアニア大公「ウラニス」
 1316年-02:00|リトアニア| |||<即位>リトアニア大公「ゲデイナス」ウラニスの弟(~1341年死去、領土は彼の7人の息子に分割)
 1316年-01:00|ドイツ| |||<解任>ホルシュタイン=キール伯「ヨハン2世隻眼伯」ヨハン3世とゲルハルト4世により廃された
 1316年-01:00|クロアチア| |||<就任>スラヴォニア全土のハン「イワン・バボニッチ」(~1322年)
 1316年-01:00|ポーランド| |||<就任>ピトル公「Jerzy」(~1327年死去)、「Wladyslaw」(~13520908死去)
 1316年-01:00|ドイツ| |||<就任>ホルシュタイン=キール伯「ヨハン3世寛大伯」(~13590927死去)ヨハン2世隻眼伯の領地を戦により奪う
 1316年1月2日-05:30|インド| |||<死去>ハルジ朝スルタン「アラー・ウッデイン・ムハンマド・シャー」50歳
 1316年1月2日-05:30|インド| |||<即位>ハルジ朝スルタン「シハブッデイン・ウマル」アラー・ウッデイン・ハルジ朝の子(~1316.4廃位)
 1316年4月14日-05:30|インド| |||<即位>ハルジ朝スルタン「クトウブッデイン・ムハラク・シャー」アラー・ウッデイン・ハルジ朝の子(~1320.0501~1320.7殺害される)
 1316年4月14日-05:30|インド| |||<廃位>ハルジ朝スルタン「シハブッデイン・ウマル」
 1316年5月1日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<即位>アイルランド上王「エドワード・ブルース」スコットランドからアイルランドに侵入(~13181014没)
 1316年6月5日-01:00|フランス/スペイン| |||<死去>フランス王(カペ朝)「ルイ10世喧嘩王」兼ナバラ王「ルイス1世」26歳(誕生1289年)
 1316年6月21日-09:00|日本| 新潟県新潟市|正和5年6月|摩訶一日印越後金津に妙蓮寺を創す
 1316年6月21日-09:00|日本| ||正和5年6月1日|経隆百鬼夜行絵巻を描く
 1316年7月29日-09:00|日本| ||正和5年7月10日|<就任>14代鎌倉幕府執権「北条高時」(~嘉暦元(1326)年3月13日)
 1316年8月7日-01:00|バチカン| |||<就任>第196代ローマ教皇「ヨハネ22世」(~13341204死去)
 1316年8月17日-01:00|ドイツ| |||<死去>アンハルト=ツェルプスト候「Albert1世」
 1316年8月17日-01:00|ドイツ| |||<就任>アンハルト=ツェルプスト候「Albert2世」(~13620717死去)、「Waldemar1世」(~13680117死去)共同統治

1330迄 (1388件)

- 1316年8月17日-01:00|チェコ| |||<就任>ホヘミア摂政「マインツ大司教アスベルトのヒーター」(2回目~13170408)
- 1316年9月10日-09:00|日本| ||正和5年8月23日|<就任>関白「二条道平」(~文保2(1318)年12月29日)
- 1316年11月15日-01:00|フランス/スペイン| |||<即位>フランス王(カペ朝)「ジャン1世遺腹王」兼ハハラ王「ファン1世」ルイ10世の死後に生まれた子(~11.19死去)
- 1316年11月19日-01:00|フランス/スペイン| |||<死去>フランス王(カペ朝)「ジャン1世遺腹王」兼ハハラ王「ファン1世」生後5日で「ルヴル宮」(1区)で/「カペ家」の直系男子が断絶
- 1316年11月20日-01:00|フランス/スペイン| |||<即位>フランス王(カペ朝)「フィリップ5世長軀王」兼ハハラ王「フェリペ2世」フィリップ4世の子でルイ10世の弟(~13220103死去)
- 1316年12月16日-03:30|イラン| |||<死去>イルハン朝君主「オルジエイトウ」
- 1316年12月16日-03:30|イラン| |||<即位>イルハン朝君主「アフ・サイト」オルジエイトウの子(~13351130死去)
- 1317年-08:00|インド/ネパール| |||<即位>パルナティ・スルタン「Patsaranga Malamo」(~1322年)
- 1317年-04:00|アゼルバイジャン/ロシア| |||<死去>シルヴァンシャ朝国王「Keykavus1世」
- 1317年-04:00|アゼルバイジャン/ロシア| |||<即位>シルヴァンシャ朝国王「Keykubad1世」(~1348年死去)
- 1317年-03:30|イラン| |||<即位>パダスハニド朝君主「Nasir al-Din Shahriyar」(~1324年)
- 1317年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンティエラ公「ニコロ・リオニ」(~1319年)
- 1317年-01:00|フランス| |||<死去>オーベールニュ伯「Robert7世」(~1325年)
- 1317年-01:00|フランス| |||<死去>モンペリアル伯「ギユメット・ヌーシャテル」
- 1317年-01:00|イタリア| |||<就任>フェラーラ侯「ベルトルト1世」エスター境界伯(~1343年死去)、「アッツォ9世」エスター境界伯(~13180624死去)、「リナルド」(~13351231死去)、「ニコロ1世」(⇒1336年フェラーラ・モンテナ侯~13440501死去)、「オビッツォ3世」(⇒1336年フェラーラ・モンテナ侯~13520320死去)
- 1317年-01:00|ドイツ| |||<就任>ライン宮中伯「アドルフ」(~13270129死去)
- 1317年-01:00|チュニジア/アルジェリア| |||<即位>ハフス朝アミール「ムハンマド2世アル・ムスタンスル」(~1318年)
- 1317年 00:00|アイルランド| |||<死去>トモント王「トーンチャド・マック・トナール・オブ・リアン」
- 1317年 00:00|イギリス| |||<就任>ストラサン伯「マリス4世」(~1329年死去)
- 1317年 00:00|アイルランド| |||<即位>トモント王「ミューチャルツァ・オブ・リアン」トイル・ヘルバツァ・モル・オブ・リアンの息子(~1343年没)
- 1317年 00:00|ポルトガル| |||テニス王は地中海のイスラム教徒による海賊行為を鎮圧するために、海軍を創設
- 1317年1月-01:00|ドイツ| |||<廃位>上ハイルン公・ライン宮中伯「ルドルフ1世」
- 1317年1月-01:00|イタリア| |||ハネツィアでフランドルのガレー船の初航海
- 1317年1月13日-09:00|日本| ||正和5年12月|<辞任>鎮西探題代理「北条[金沢]種時」
- 1317年1月27日-09:00|日本| ||正和5年12月15日|<死去>藤原為理(不明)中務大輔・右馬頭、歌人
- 1317年2月12日-09:00|日本| ||正和6年|<任命>常陸国守護「佐介時綱(北条時綱)」(~不詳、以後小田氏・宍戸氏が歴任~1333年)
- 1317年2月12日-09:00|日本| ||正和6年|<任命>豊前国守護「糸田顕義」(~不詳)
- 1317年2月14日-09:00|日本|京都府京都市|正和6年1月3日|<京大地震>京都に強い揺れがあり東寺の塔の九輪(五重の塔など屋根上の金属製の飾り柱)が折れて傾き寺内の灌腸院などが破損
- 1317年2月16日-09:00|日本|京都府京都市|正和6年1月5日|マグニチュード6.5~7の大地震が襲い、白河あたりの人家がごとごとく潰れて5人死亡/また法勝寺、法成寺の堂宇門楼が傾いて倒れ、清水寺では塔と鐘楼が焼け落ちた
- 1317年3月-01:00|フランス| |||「ブルゴニユ公」ウード4世や「スヴェル伯」ルイらを首領とする「貴族反乱」が起こる
- 1317年3月14日-09:00|日本| ||文保1年2月|<就任>鎮西探題「北条随時」(~元亨元(1321)年6月23日死去)
- 1317年3月16日-09:00|日本| ||文保1年2月3日|文保に改元
- 1317年3月17日-09:00|日本|広島県尾道市|文保1年2月4日|益円筆の絹本両界曼荼羅2幅(尾道浄土寺蔵)成る
- 1317年3月26日-01:00|ドイツ/ポーランド| |||<就任>ブランデンブルク=シュテンダル境界伯「ヴァルデマル」「ハインリヒ1世」⇒ブランデンブルク境界伯(~13190814死去)(~13180214死去)
- 1317年4月6日-01:00|フランス| |||<死去>サンポール伯「ギヨーム4世」
- 1317年4月6日-01:00|フランス| |||<就任>サンポール伯「ジャン」(~1344年死去)
- 1317年4月7日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 副王「ウィグモア男爵ロジャー・モティマー」(~13180506)
- 1317年4月8日-01:00|チェコ| |||<就任>ホヘミア摂政「ホヘミアのエルザベス」(~11.18)
- 1317年5月10日-09:00|日本| ||文保1年3月29日|<死去>善統親王(85歳)順徳天皇の皇子
- 1317年5月12日-01:00|チュニジア/イタリア| |||ハネツィア、テニスとの通商協定
- 1317年6月15日-09:00|日本|京都府京都市|文保1年5月6日|山伏、禁中に乱入
- 1317年7月 00:00|マン島/イギリス| |||マン島をイングランド王が統治(~1328年)
- 1317年9月18日-02:00|キプロス| |||<就任>聖ヨハネ騎士団マスター「ジェラルド・パン」(~1319年)、対立マスター「モリス・パンニョク」(~1319年)
- 1317年10月8日-09:00|日本| ||文保1年9月3日|<死去>伏見法皇/53歳(誕生:文永2(1265)0423)92代天皇
- 1317年11月9日-02:00|ギリシャ/スペイン| |||<死去>アテネ公「マフロト」
- 1317年11月9日-02:00|ギリシャ/スペイン| |||<即位>アテネ公「ギジエルモ2世」(~13380822死去)、「アルフォンソ・フレデリコ」(~1338年)
- 1317年12月10日-02:00|フィンランド/スウェーデン| |||<死去>フィンランド 公「ヴァルデマル・マグヌソン」
- 1318年-05:30|インド| |||<死去>ヤダヴァ朝国王「ハラハラテヴァ」ハルジ朝に破れ滅亡
- 1318年-05:00|ウズベキスタン| |||<復位>チャガタイ汗国ハン「ケケク」(~1326年死去により、東西に分裂)
- 1318年-03:30|イラン/アフガニスタン| |||<死去>ミフラーニド朝マリーク「Nasir al-Din Muhammad」
- 1318年-03:30|イラン/アフガニスタン| |||<即位>ミフラーニド朝マリーク「Nusrat al-Din Muhammad」(~1330年死去)

1330迄 (1388件)

- 1318年-02:00|ギリシャ| |||<死去>エピソード専制公「トマス1世コムニストウカス」甥のケファロニア伯ニコラ・オルシニ(イタリア系)に暗殺される
- 1318年-02:00|ギリシャ| |||<死去>テッサリア尊厳公「ヨハネス2世トウカス」
- 1318年-02:00|ギリシャ| |||<就任>アカイ公「ロベルト1世(ホリ王)」(~1322年)
- 1318年-02:00|ギリシャ| |||<即位>エピソード専制公「ニコラス・オルシニ」ケファロニア島とザンテのパライーノ伯爵(~1323年死去)
- 1318年-02:00|ギリシャ| |||<即位>テッサリア尊厳公「ステファノス・ガヴリロフ」(~1333年死去、東ローマ帝国による併合)
- 1318年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||エピソードをシリア王国が統治(~1324年)
- 1318年-01:00|フランス| |||<死去>シャルトル伯「Louis」(~1328年死去)
- 1318年-01:00|スウェーデン| |||<死去>セーデルマンランド公「エリック・マグヌソン」
- 1318年-01:00|ドイツ| |||<死去>ハッハルクザウゼン伯「ハインリヒ」
- 1318年-01:00|オランダ| |||<就任>ゲルデルン伯「ライナルト2世(レイナウト2世)」(⇒1339年ゲルデルン公~13431012死去)
- 1318年-01:00|ドイツ| |||<就任>ハッハルクザウゼン伯「オットー」(~1384年死去)、「ルトルフ2世」(~1352年死去)
- 1318年-01:00|チェコ/アルゼリア| |||<即位>ハフス朝アミール「アブー・ハカル2世アルムタワキル」(~1346年)
- 1318年 00:00|マン島/イギリス| |||<就任>マン島知事「John de Athy」
- 1318年2月2日-08:00|中国| ||元・延祐5年<即位>天山ウイグル王国行イクト「テムル・ブカ(帖木児不花)」衮儿の子(~1327年)
- 1318年2月2日-07:00|ベトナム| ||大越・大慶5年<即位>チャンパ王「制阿難」(~1342年死去)
- 1318年2月14日-01:00|ドイツ/ポーランド| |||<死去>ブランテンブルク辺境伯「ハインリヒ1世」
- 1318年3月-03:00|サウジアラビア| |||<復位>メッカ・シャリフ「ムイタ・ブン・アビー・ヌマイ・アサド・アルディン」(~6月)
- 1318年3月-01:00|スウェーデン| |||<就任>スウェーデン王国摂政「Ingeborg」(~13190708~1326. 5死去)
- 1318年3月-01:00|スウェーデン| |||<退位>スウェーデン王国国王「ヒルメル」(~13210531死去)
- 1318年3月21日-09:00|日本| 京都府京都市伏見区| 文保2年2月18日| 醍醐寺三宝院焼亡
- 1318年3月29日-09:00|日本| ||文保2年2月26日<譲位>95代「花園天皇」/<践祚>尊治親王(院政:後宇多上皇)
- 1318年4月30日-09:00|日本| ||文保2年3月29日<即位>96代「後醍醐天皇」(尊治親王)
- 1318年5月6日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 副王代行「カシエル大司教ウリアム・フィッツジョン」(~11. 3)
- 1318年5月26日-09:00|日本| ||文保2年4月25日<死去>西園寺嫡子(今出川院)(67歳) 龜山天皇の中宮
- 1318年5月26日-09:00|日本| 滋賀県大津市| 文保2年4月25日| 延暦寺衆徒が園城寺を焼く
- 1318年6月-03:00|サウジアラビア| |||<復位>メッカ・シャリフ「ムイタ・ブン・アビー・ヌマイ・アサド・アルディン」(~13190206)
- 1318年6月-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「トッサ・テブレチニ」(~1321年11月)
- 1318年6月24日-01:00|イタリア| |||<死去>フェラーラ侯・エステ辺境伯「アッツォ9世」
- 1318年7月17日-03:30|イラン| |||<死去>イルハン国宰相「ラシード・アッティーン」処刑される
- 1318年7月22日-01:00|アルゼリア| |||<死去>ザイーン朝スルターン「アブー・ハンム1世」暗殺される
- 1318年7月22日-01:00|アルゼリア| |||<即位>ザイーン朝スルターン「アブー・タシュフィーン1世」(~1337年、マリノ朝支配~1348年)
- 1318年7月29日-09:00|日本| ||文保2年7月2日<死去>八坂検校(城玄)(不明) 平曲家
- 1318年9月22日-01:00|ドイツ| |||<死去>ブランシュヴァイク・グオルフェンビュッテル及びゲッティンゲン侯「アルブレヒト2世」
- 1318年9月22日-01:00|ドイツ| |||<就任>ブランシュヴァイク・グオルフェンビュッテル及びゲッティンゲン侯「オットー1世」アルブレヒト2世の息子(~13440830死去)
- 1318年10月14日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<死去>アイルランド 上王「エドワード・ブルス」ダントーク付近でイングランド軍と戦って敗死
- 1318年11月3日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 判事「ダブリン大司教ヒックナーのアレクサンダー」(~13190612)
- 1318年11月22日-04:00|ロシア| |||<死去>ウラジミール・スズダリ大公「トウエリ公ミハイル・ヤロスラヴィチ」
- 1318年11月22日-04:00|ロシア| |||<即位>ウラジミール・スズダリ大公「モスクワ公ユーリー・ダニロヴィッチ」(~1322年)
- 1318年12月8日-09:00|日本| 愛媛県越智郡| 文保2年11月15日| 藤原久道、大願主として、越智郡大条浦の七郎大明神の社殿を造立
- 1319年-08:00|インドネシア| |||マジャパヒト王国: 反乱軍が首都を占拠
- 1319年-03:30|イラン| |||<即位>オムス王「Kut al-Din Tahamtan」(~1346年)
- 1319年-02:00|キプロス| |||<就任>聖ヨハネ騎士団マスター「ファウルケト・ビジヤレ」(2回目~13190613)
- 1319年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンテリア公「ジュスティニアノ・ジュスティニアニ」(~1321年)
- 1319年-02:00|トルコ| |||<即位>テケ侯国「Yunus・ベイ」(~1324年)
- 1319年-01:00|フランス| |||<就任>タルタン伯「Renaud3世 de Trie」(~1327年)
- 1319年-01:00|フランス| |||<就任>ホワリエ伯「John1世」(~1364年)
- 1319年-01:00|ドイツ| |||<就任>ライン宮中伯「アドルフ」(~13270129死去)、「ルトヴィヒ4世」(~1329年)
- 1319年-01:00|チェコ| |||ホヘミアが上ルサチアを獲得(残りは1329年)
- 1319年 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<死去>イギリス王領ジャージー - 島副守護者「Drouet de Barentin」
- 1319年 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー - 島守護者「Pierre de Balmes」
- 1319年1月21日-09:00|日本| ||文保2年12月29日<就任>関白「一条内経」(~元享3(1323)年3月29日)
- 1319年1月22日-09:00|日本| 三重県伊勢市| 文保3年| この年、結城宗広、伊勢光明寺を再建
- 1319年2月27日-09:00|日本| 京都府京都市東山区| 文保3年2月7日| 東福寺焼亡
- 1319年3月-03:00|サウジアラビア| |||<即位>メッカ・シャリフ「ウアイア・ブン・アビー・ヌマイ・サイフ・アルディン」(~1331年1月)
- 1319年4月6日-01:00|フランス| |||<就任>アンジュー伯(ガロワ家)ジャン2世「フィリップ1世とジャンヌ・ド・ブルゴニの息子」(~13640408死去44歳)
- 1319年5月3日-09:00|日本| 滋賀県大津市| 文保3年4月13日| 延暦寺衆徒が園城寺の戒壇落慶により蜂起

1330迄 (1388件)

- 1319年5月8日-01:00|ノルウェー| |||<死去>ノルウェー王「ホーコン5世マクヌッソン足長王」
1319年5月8日-01:00|ノルウェー| |||<即位>ノルウェー王「ニダロス大司教エリク・アーネソン」 国務院議長 (~8. 24)
1319年5月9日-09:00|日本|高知県|文保3年4月19日|幕府、園城寺僧正長乗を土佐に配流
1319年5月15日-09:00|日本|滋賀県大津市|文保3年4月25日|延暦寺衆徒が園城寺を焼く
1319年5月18日-09:00|日本| ||元応1年4月28日|元應に改元
1319年5月21日-09:00|日本|京都府京都市右京区|元応1年5月|法金剛院十一面観音像できる
1319年5月25日-09:00|日本| ||元応1年5月5日|幕府、三河・尾張など六か国の管轄を六波羅探題から政所・問注所へ変更
1319年6月12日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 判事「ウイグモア男爵ロジャー・モティアー」 (~13210630)
1319年6月18日-02:00|キプロス| |||<就任>聖ヨハネ騎士団マスター「エリオント・ウイリス」 (~1346年5月)
1319年7月8日-01:00|スウェーデン| |||<即位>スウェーデン王国国王「マグヌス4世」 (~13640215~13741201死去58歳)
1319年7月19日-09:00|日本| ||元応1年7月2日|<死去>公卿・歌人、六条有房/69
1319年8月14日-01:00|ドイツ/ポーランド| |||<死去>ブランデンブルク辺境伯・下ラウジッツ辺境伯「ヴァルター・マルク」下ラウジッツは皇帝ルドルフ4世により没収
1319年8月14日-01:00|ドイツ/ポーランド| |||<就任>ブランデンブルク辺境伯「ハインリヒ2世」ハインリヒ1世の息子 (~1320. 7死去、神聖ローマ皇帝ルドルフ4世がブランデンブルクを獲得)
1319年8月24日-01:00|ノルウェー| |||<即位>ノルウェー王「マグヌス7世エリクソン・コルティ短身王」 (~13550815)
1319年11月13日-01:00|デンマーク| |||<死去>デンマーク王「エリック6世」 (誕生1274年)
1319年12月13日-09:00|日本|広島県三原市|元応1年11月|念心作宝篋印塔 (三原米山寺蔵) 成る
1319年12月27日-09:00|日本| ||元応1年11月15日|<死去>五辻忠子 (52歳) 後宇多天皇の女院、後醍醐天皇の母
1320年-05:45|ネパール| |||<即位>マ王国「Jayari Malla」 (~1344年)、「Jayarudra Malla」 (~1326年)
1320年-05:00|ガフスタン/キルギス/トルクメニスタン/ウズベキスタン| |||<死去>オム・ウルス・ハン「Ilbasan」
1320年-05:00|ガフスタン/キルギス/トルクメニスタン/ウズベキスタン| |||<即位>オム・ウルス・ハン「Mubarak Khwaja」 (~1344年死去)
1320年-03:00|ベラルーシ| |||<即位>グイェフスカ公「アルキルダス」 (~1377年死去)
1320年-03:00|ベラルーシ/リトアニア| |||<編入>リトアニアのグイェフスカ部分
1320年-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「アラエ・イン・ハッシャ」 (~1331年)
1320年-02:00|ルーマニア| |||<就任>トブルグ支配者「ハリカ」 (~1347年)
1320年-01:00|マルタ| |||<死去>マルタ伯「Guglielmo Raimondo Moncada」
1320年-01:00|マルタ| |||<就任>マルタ伯「Guglielmo d' Aragona, duca di Athena」 (~1330年)
1320年-01:00|フランス| |||「王室」の財務運営のため、「会計簿」を検査する機関として「会計検査院」が正式に設立される
1320年-01:00|アルジェリア| |||ザヤーン朝がベジャヤを数次にわたって攻囲
1320年1月15日-09:00|日本|広島県尾道市|元応1年12月5日|備後守護・長井貞重が、配下の守護代官に命じ、同国内の自分の管轄地である尾道浦を襲撃させ放火で1000余戸焼く
1320年1月20日-01:00|ポーランド| |||<即位>ポーランド 公「ヴワディスワフ1世ウキェテク」ポーランド 王国を再統合⇒ポーランド 王 (~1330302死去)
1320年1月25日-01:00|デンマーク| |||<即位>デンマーク王「クリスティアン2世エリクセン」エリック5世とアグネス・フォン・ブランデンブルクの次男 (1回目~13260607廃位)
1320年2月10日-09:00|日本| ||元応2年|この年出羽国の蝦夷反乱
1320年2月10日-09:00|日本|奈良県宇陀市|元応2年|大和国宇陀水分神社本殿できる
1320年3月1日-08:00|中国/モンゴル| ||元・延祐7年1月21日|<死去>元第4代皇帝「仁宗アムバウルタ」/年36
1320年4月6日 00:00|イギリス| |||[アブ・ロース宣言]スコットランドで採択。ロバート1世の教皇破門が解かれイングランドから独立へ
1320年4月19日-08:00|中国/モンゴル| ||元・延祐7年3月11日|<即位>元第5代皇帝「英宗テグバハラ」 (~至治3年8月4日1323年9月4日)アムバウルタの長男
1320年5月1日-05:30|インド| |||<退位>ハルジ朝スルターン「クタブッディーン・ムハムマド・ラクシャ」 (~1320. 7殺害される)
1320年5月5日-01:00|フランス| |||パリ条約が結ばれ、フィリップ5世がフランスとの戦争を有利に終結させる
1320年5月30日-04:00|ロシア| |||<死去>ロストフ公「ユリー・アレクサンドロウイチ」
1320年5月30日-04:00|ロシア| |||<即位>ロストフ・ウスレチンスキー公「フォートル・ウァシリウイチ」 (~1365年)
1320年5月30日-04:00|ロシア| |||<即位>ロストフ・ボリグレフスキー公「コンスタンチン・ウァシリウイチ」 (~1365年)
1320年6月30日-09:00|日本| ||元応2年5月24日|<死去>北条時敦 (40歳) 六波羅探題南方・北方
1320年7月-01:00|ドイツ/ポーランド| |||<死去>ブランデンブルク辺境伯「ハインリヒ2世」神聖ローマ皇帝ルドルフ4世がブランデンブルクを獲得
1320年7月7日-08:00|中国/モンゴル| ||元・延祐7年6月|元で僧円明が陝西で蜂起し帝と称するが逮捕され処刑
1320年7月13日-09:00|日本| ||元応2年6月7日|<死去>九条師教 (48歳) 摂政・関白、右大臣
1320年7月20日-04:00|アルメニア| |||<死去>キキア・アルメニア王国国王「オシ」
1320年7月20日-04:00|アルメニア| |||<即位>キキア・アルメニア王国国王「レオ4世」 (~13410828、殺害される)
1320年7月20日-02:00|トルコ| |||<死去>キキア・アルメニア王国国王「オシ」
1320年7月20日-02:00|トルコ| |||<即位>キキア・アルメニア王国国王「レオ5世」 (~13410828死去)
1320年9月6日-09:00|日本| ||元応2年8月4日|続千載和歌集撰進される
1320年9月30日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 判事代行「キルデア伯トマス・フィッツ・エルト」 (1回目⇒13210630、判事~8. 28)

1330迄 (1388件)

- 1320年10月1日-01:00|イタリヤ| |||<ベネチア、ブラバント公との通商協定
- 1320年10月4日-09:00|日本| |||元応2年9月2日|幕府、三河・尾張など六か国の管轄を政所・問注所から六波羅探題に戻す
- 1320年10月12日-02:00|トルコ| |||<死去>カイイ帝国皇帝「ミカル9世パレオログス」
- 1320年10月12日-09:00|日本|徳島県|元応2年9月10日|延暦寺の訴えにより、幕府、検非違使別当 左兵衛督 吉田隆長を罷免し、阿波へ配流
- 1320年12月25日-03:00|サウジアラビア| |||<復位>メッカ・シャリフ「ルマイド・ブン・アビドゥ・ヌマイヤト・アルデイン」共同統治 (~13310117)
- 1321年-05:30|インド| |||テリに城塞トゥグルカバートが造営
- 1321年-02:00|ウクライナ| |||<死去>キエフ大公「スタニスラフ1世」
- 1321年-02:00|ウクライナ| |||<死去>ペレヤスラヴリ公「オレグ」
- 1321年-02:00|ギリシャ/イタリヤ| |||<就任>ヴェネチアのカンティエラ公「トマソ・ダントーロ」 (~1323年)
- 1321年-02:00|ウクライナ| |||<即位>キエフ大公「ミンダウグス」 (~1324年)
- 1321年-01:00|フランス| |||<死去>モンペリアル伯「ルノー・ド・ブルゴニユ」
- 1321年-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パラタイン「トッサ・デ・ブレウニ」 (~1322年8月没)
- 1321年1月29日-09:00|日本| |||元応3年|<任命>越前国守護「後藤基雄」 (~不詳)
- 1321年1月29日-08:00|中国/モンゴル| |||元・至治1年1月1日|元の英宗が至治 (-1323年) と改元
- 1321年2月27日-09:00|韓国/朝鮮| |||高麗・至治1年1月30日|高麗・忠肅王、元の改元を受け至治に改元
- 1321年3月11日 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー・島副守護者「Gerard d'Orons」 (~1328年)
- 1321年3月19日-01:00|イタリヤ/アルメニア| |||<ベネチア、アルメニアのレオネ五世と通商協定
- 1321年3月22日-09:00|日本| |||元亨1年2月23日|元亨に改元
- 1321年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ウエントウルツォ・ド・ジヤヌツォ」
- 1321年4月23日-01:00|ポーランド| |||<死去>オレシツァ公「ホレスワフ」
- 1321年4月23日-01:00|ポーランド| |||<就任>オレシツァ公「コンラト1世」 (~13661222死去)
- 1321年4月28日-09:00|日本|京都府京都市右京区|元亨1年4月|後宇多法皇大覚寺金堂を建立
- 1321年5月22日-08:00|マレーシア| |||<死去>ケダ・スルタン国スルタン「マフムド・シャー1世」
- 1321年5月22日-08:00|マレーシア| |||<即位>ケダ・スルタン国スルタン「イブラヒム・シャー」 (~13730809死去)
- 1321年5月31日-01:00|スウェーデン| |||<死去>元スウェーデン王国国王「ビルイェル」41才
- 1321年6月18日-01:00|イタリヤ| |||<ベネチアで大運河の掘削に関する法令
- 1321年6月26日-09:00|日本|石川県輪島市|元亨1年6月|曹洞宗の大本山として瑩山紹瑾禅師により諸嶽寺を總持寺に改名創建<曹洞宗本山>
- 1321年7月18日-09:00|日本| |||元亨1年6月23日|<死去>鎮西探題「北条随時」
- 1321年7月26日 00:00|イギリス| |||<就任>初代ケント伯「エドマント・オブ・ウットストック」 (~13300319死去私権剥奪)
- 1321年8月20日-09:00|日本|京都府京都市上京区|元亨1年7月26日|京都一条西洞院が焼失
- 1321年8月28日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事「ラウス伯ジョン・デ・バーミンガム」 (~13240201)
- 1321年9月8日-05:30|インド| |||<即位>トゥグルク朝スルタン「ギヤースッディーン・トゥグルク」 (~1325. 2死去) インド 北西警備隊長トゥグルクがテリで創始
- 1321年9月14日-01:00|イタリヤ| |||<死去>ダンテ (詩人) イタリヤ『神曲』 [12650518生~] 享年56
- 1321年10月29日-01:00|セルビア| |||<死去>第7代セルビア王「ステファン・ウロシュ2世ミルティン」
- 1321年10月29日-01:00|セルビア| |||<即位>第8代セルビア王「ステファン・コンスタンティン」ステファン・ウロシュ2世ミルティンとアンゲロス家の王女の子、対立王 (~1322年)
- 1321年11月27日-09:00|日本|京都府京都市上京区|元亨1年11月8日|童華院日像赦されて上洛、妙顕寺を創す
- 1321年12月5日-09:00|日本| |||元亨1年11月16日|法明、融通念佛宗を中興
- 1321年12月10日-09:00|日本| |||元亨1年11月21日|<任命>六波羅探題北方・山城・山城・播磨国守護「北条範貞 (極楽寺流常盤氏)」 (~元徳2 (1330) 年11月2日)
- 1321年12月19日-01:00|イタリヤ| |||<ベネチア、ポロニアとの通商協定
- 1321年12月28日-09:00|日本| |||元亨1年12月9日|後宇多法皇、院政を止め、後醍醐天皇の親政とする
- 1321年12月28日-09:00|日本| |||元亨1年12月9日|後醍醐天皇、記録所を再興し、大津・葛葉を除く諸所の新関を廃止
- 1322年-08:00|インドネシア| |||<即位>テルナテ・スルタン「Cili Aiyah」 「Siding Arif」 (~1331年)
- 1322年-04:00|ロシア| |||<就任>ノヴゴロド共和国ノヴゴロド公「ユリー・ダニロウイチ」 (~1325年)
- 1322年-04:00|ロシア| |||<即位>ウラジミール・スズダリ大公「トゥアリ公トミリー・ミハイロウイチ・グズニエ・オチ」 (~13260915死去)
- 1322年-03:00|イェメン| |||<即位>ラッセル朝スルタン「ムジャイド・アリ」 (~1363年)
- 1322年-02:00|ラトビア/エストニア/ドイツ| |||<就任>リグアニア騎士団団長「コンラート・ケッセルワート」摂政 (~1324年)
- 1322年-02:00|ギリシャ| |||<即位>アカイア公「ジョヴァンニ・ディ・グラーイナ」 (~1333年)
- 1322年-01:00|イタリヤ| |||<死去>ウルビーノ伯・モンテフェルトロ伯「フェデリコ1世・ダ・モンテフェルトロ」
- 1322年-01:00|フランス| |||<死去>モンペリアル伯「ルノー・ド・ブルゴニユ」
- 1322年-01:00|スペイン| |||<就任>アンブリアス伯「Marquesa」 (~1327年), 「Hugh6世」 (~1325年)
- 1322年-01:00|ウクライナ| |||<就任>スラヴォニア全土のハン「ミクローシュ・フェルシェントウアイ」 (~1324年)
- 1322年-01:00|ベルギー/フランス| |||<就任>フランドル伯「ルイ1世」 (~1346年)
- 1322年-01:00|ポズナニア・ヘルツェゴビナ/ハンガリー| |||<就任>ポズナニア・ハン「ステファン・ゴトマン・ステハニッチ」 (~13530928没)
- 1322年-01:00|ウクライナ| |||<就任>ポルツァ公「ムテシ2世シビッチ・オブ・ブリヒル」

1330迄 (1388件)

- 1322年-01:00|フランス| |||<就任>モンペリアル伯「オトナン」ルノーとキユメットの息子(〜1338年死去)
- 1322年-01:00|スペイン| |||<就任>リハゴルザ伯「Peter」(〜1381年)
- 1322年-01:00|イタリア/パチカン| |||ウルビーノ伯領が教皇領となる(〜1324年)
- 1322年1月3日-01:00|フランス| |||<死去>フランス王・ブルゴニュ伯「フィリップ」5世長艱王(誕生1293年)
- 1322年1月3日-01:00|フランス/スペイン| |||<即位>フランス王「シャルル4世端麗王」兼カバラ王「カロス1世」フェリペ1世とアナ1世の男子(〜13280201死去34歳)
- 1322年1月6日-01:00|セルビア| |||<即位>第8代セルビア王「ステファン・ウロシュ3世デヤンスキ」ステファン・ウロシュ2世ミルティンとブルガリア王女アソナの子(〜13310821死去)
- 1322年1月6日-01:00|モンテネグロ/セルビア| |||<即位>ゼータ大公「ステファン・トウジャン」(〜13310821)
- 1322年1月13日-09:00|日本| ||元亨1年12月25日|<任命>鎮西探題「北条赤橋」英時(〜正慶2・元弘3(1333)年5月25日死去)
- 1322年1月18日-09:00|日本| ||元亨2年|<任命>志摩国守護「北条貞顕」(〜不詳)
- 1322年1月18日-09:00|日本| ||元亨2年|この年、出羽国の蝦夷が反乱
- 1322年1月18日-09:00|日本| 沖縄県|元亨2年|<即位>琉球北山国王「怕尼芝」(〜1395年死去)
- 1322年1月30日-09:00|日本| ||元亨2年1月13日|<死去>北畠師重(公卿・歌人)
- 1322年2月5日-09:00|日本| 愛媛県西条市|元亨2年1月19日|三島神社(伊予)社殿宝物焼失
- 1322年3月16日 00:00|イギリス| |||<死去>エッセクス伯「ハンフリー・ド・ブーン」
- 1322年3月16日 00:00|イギリス| |||<就任>エッセクス伯「ジョン・ド・ブーン」(〜13360120死去)
- 1322年3月16日 00:00|イギリス| |||エドワード2世が、反抗貴族ランカスター伯の軍を破る
- 1322年3月22日 00:00|イギリス| |||<死去>2代ランカスター伯・2代レスター伯「トマス」バラフリンジの戦いに敗れて処刑
- 1322年3月25日 00:00|イギリス| |||<就任>カーライル伯「アントニー・ハークレイ」(〜13230303死去)
- 1322年4月-02:00|ルーマニア/ハンガリー| |||<就任>トランシルヴァニア総督「タマス・セークセー」(〜1342年8月)
- 1322年4月22日-01:00|ドイツ| |||<死去>ザクセン＝ラウエンブルク公ヘルゲトルフ＝メルン系「ヨハン2世」
- 1322年4月22日-01:00|ドイツ| |||<即位>ザクセン＝ラウエンブルク公ヘルゲトルフ＝メルン系「アルブレヒト4世」(〜1343年死去)
- 1322年5月10日 00:00|イギリス| |||<就任>初代ウインチェスター伯「ヒュー・ド・イスペンサー」(〜13261027処刑される)
- 1322年5月22日-01:00|イタリア| |||ベネチア、フランドル伯ロベールと協定
- 1322年6月8日-01:00|イタリア| |||ベネチア、ブルージュ市と通商協定
- 1322年6月24日-01:00|イタリア| |||<死去>ミラノ・シニョレ「マッテオ1世・ウァイスコンティ」
- 1322年6月24日-01:00|イタリア| |||<就任>ミラノ・シニョレ「ガレアツォ1世・ウァイスコンティ」(〜13280806死去)
- 1322年7月17日-09:00|日本| 広島県東広島市|元亨2年6月3日|僧行賢の発願により、石造不動明王立像(東広島廃長楽寺)成る
- 1322年7月22日-01:00|フランス| |||<死去>ヌヴェール伯・ルテル伯「ルイ1世」
- 1322年7月22日-01:00|フランス| |||<就任>ヌヴェール伯・ルテル伯「ルイ2世」フランドル伯(〜13460826死去)
- 1322年8月-02:00|ブルガリア| |||<死去>第二次ブルガリア帝国皇帝「テオドル・スヴェトスラフ」
- 1322年8月-02:00|ブルガリア| |||<即位>第二次ブルガリア帝国皇帝「ゲオルギ・テルテル2世」(〜1323年4月死去)
- 1322年8月18日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事代行「ウィリアム・ド・バミンガム」(〜13230218)
- 1322年9月-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パライン「フクロフ・ド・ラケス」(〜1327年9月没)
- 1322年9月7日-01:00|ドイツ| |||<死去>ブラウシュヴィーク＝グレンハーゲン侯「ゲルハルト・フォン・グレンハーゲン」(〜1327年11月没)
- 1322年9月7日-01:00|ドイツ| |||<就任>ブラウシュヴィーク＝グレンハーゲン侯(共同統治)「ハインリヒ2世」ハインリヒ1世の息子(〜1351年死去)、「エルスト1世」ハインリヒ2世の弟(〜13610309死去)
- 1322年9月17日-01:00|フランス/ベルギー| |||<死去>フランドル伯「ロベール3世」
- 1322年9月17日-01:00|ベルギー/フランス| |||<就任>フランドル伯「ルイ1世」ロベール3世の孫(〜13460826死去)
- 1322年9月23日-01:00|ドイツ| |||<廃位>ドイツ対立王「フリードリヒ3世」ミュルトル近辺の戦いで大敗し捕虜となる
- 1322年9月27日-09:00|日本| ||元亨2年8月16日|僧師錬、仏教通史「元亨釈書」を撰進
- 1322年10月-01:00|ハンガリー/イタリア| |||ベネチア、ハンガリーのカルと協定
- 1322年12月 00:00|イギリス| |||<剥奪>ソールズベリー女伯「アリスト・レイシー」
- 1323年-07:00|タイ| |||<死去>スコタイ王朝国王「フーサイソクテーム」
- 1323年-07:00|タイ| |||<即位>カオタイ王国国王「パーノン」(〜1353年)
- 1323年-07:00|タイ| |||<即位>スコタイ王朝国王「ルタイ」(〜1341年)
- 1323年-05:30|インド| |||トウグルク朝遠征軍がカーカチヤとハンティヤを滅ぼす
- 1323年-04:00|ロシア| |||<復位>プスコフ公「ダウイト」(〜1323年)
- 1323年-02:00|ウクライナ| |||<死去>ウァルイーニ公「ガリチ公・ヘルズ」公・ルーツ公「アントン・レイ・ユリウイ」
- 1323年-02:00|ギリシャ| |||<死去>エピロス専制公「ニコラ・オルシーニ」
- 1323年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ウァネツィアのカンテリア公「エンリコ・ミキエリ」(〜1325年)
- 1323年-02:00|エストニア/デンマーク| |||<就任>デンマーク・エストニア総督「ヨハネス・カナ」(〜同年)
- 1323年-02:00|ギリシャ| |||<就任>ナクス公「ニコロ1世」(〜1341年)
- 1323年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ウァルイーニ公「ホルスワフ」(〜1340年)
- 1323年-02:00|ギリシャ| |||<即位>エピロス専制公「イオアニス・コムニストウカス」(〜1335年死去)
- 1323年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ガリチ公「ウラジミール・ウイウイ」(〜1325年)、「ユリー・トロイトノウイ」(〜1340年)、「ホルラント」名ホルスワフ)兼ヘルズ公(〜1340年死去)
- 1323年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ルーツ公「リュバルタス」(〜1324年退位)
- 1323年-01:00|ドイツ| |||<死去>ホルシュタイン＝ブレン伯「ゲルハルト4世」

1330迄 (1388件)

- 1323年-01:00|ドイツ| |||<就任>下ラウツツツ边境伯「ルトウ・ヒ1世」ブランデンブルク边境伯 (~1351. 12退位)
- 1323年-01:00|イタリア| |||<就任>ウルビーノ伯・モンテフェルトロ伯「グイート2世」、「ガラツツ」、「ノルフォ」 (~1360年)
- 1323年-01:00|ドイツ| |||<就任>スポンハイム・シュタルケンブルク伯「Henry2世」 (~13231011死去)
- 1323年-01:00|ドイツ| |||<就任>テューリンゲン方伯「フリートリヒ2世」マイセン边境伯 (~1349年)
- 1323年-01:00|ドイツ/ポーランド| |||<就任>ブランデンブルク边境伯「ルトウ・ヒ2世」ハインリヒ2世の従弟で神聖ローマ皇帝ルトウ・ヒ4世の息子 (~1351. 12退位)
- 1323年-01:00|ドイツ| |||<就任>ネーデルザインブレン伯「ゲルハルト5世」 (~13500922死去)
- 1323年-01:00|ポーランド| |||<即位>ハルチーク・オリエニ王「ホレスワフ・イェジ2世」トロイエン1世の息子 (~13400407死去)
- 1323年-01:00|バチカン/イギリス| |||教皇ヨハネス22世はスコットランド国王ロバート1世の破門を解き、スコットランド王として承認
- 1323年-01:00|イタリア| |||ヴェネツィア共和国議員世襲制が常制化
- 1323年-01:00|スウェーデン/ロシア| |||スウェーデンとロシアがガリア地方を分割領有
- 1323年-01:00|ハンガリー| |||ハンガリーがウイシェグラドに首都をおく
- 1323年 00:00|アイスランド/デンマーク| |||<就任>アイスランド支配者「エイリク・リダリスグ・エインビヤルナルソン」 (~1341年)
- 1323年2月6日-09:00|日本| ||元亨3年|<任命>対馬国守護「少弐貞経」 (~不詳)
- 1323年2月6日-09:00|日本| ||元亨3年|<任命>大隅国守護「北条師頼」 (~元弘3(1333)年)
- 1323年2月6日-09:00|日本| ||元亨3年|<任命>長門探題「北条時直」 (~元弘3(1333)年5月26日、朝廷方の少弐貞経に降伏)
- 1323年2月6日-09:00|日本| ||元亨3年|<任命>土佐国守護「北条氏」 (~元弘3(1333)年)
- 1323年2月6日-09:00|日本| ||元亨3年|<任命>豊前国守護「糸田貞義」 (~元弘3(1333)年)
- 1323年2月6日-09:00|日本| 長野県上伊那郡辰野町|文保2年|善光寺仏師妙海十一面観音像(長野香住寺)を造る
- 1323年2月6日-09:00|日本| 兵庫県神戸市兵庫区|元亨3年|この年、遊行縁起絵巻(神戸真光寺)できる
- 1323年3月3日 00:00|イギリス| |||<死去>カラル伯「アントン・ルー・ハーレイ」
- 1323年3月8日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至治3年2月|元「大元通制」頒行
- 1323年4月-02:00|ブルガリア| |||<死去>第二次ブルガリア帝国皇帝「ゲオルギ・テル2世」
- 1323年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「コゼツタ・ジャンニ・ニコ・ジョヴァンニ」 「ウコリーノ・フォルネロ」
- 1323年5月4日-09:00|日本| ||元亨3年3月29日|<就任>関白「九条房実」 (~正中元(1324)年12月27日)
- 1323年6月-02:00|ブルガリア| |||<即位>第二次ブルガリア帝国皇帝「ミハイル・アッセン3世」 (~13300728死去)
- 1323年6月9日 00:00|チャンネル諸島| |||<就任>イギリス王領ジャージー-島副守護者「Henri de Sully」 (~同年死去)
- 1323年8月2日-09:00|日本| ||元亨3年6月30日|<死去>北条(大仏)宣時(武将・歌人)
- 1323年9月-06:30|ミャンマー| |||<死去>ヘーゲー王「ソー・ウー」
- 1323年9月4日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至治3年8月4日|<死去>元第5代皇帝「英宗テハル」弑される/年21
- 1323年9月15日-09:00|日本| 広島県世羅郡世羅町|元亨3年8月15日|木造大日如来坐像(甲山安楽院蔵)成る
- 1323年9月28日-06:30|ミャンマー| |||<即位>ヘーゲー王「ソー・セイン」 (~1330年4月没)
- 1323年10月4日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至治3年9月4日|<即位>元第6代皇帝「泰定帝イェン・テムル」 (~致和元年7月10日1328年8月15日)チンギスの子カマ(顯宗)の長男
- 1323年10月11日-01:00|ドイツ| |||<死去>スポンハイム・シュタルケンブルク伯「Henry2世」
- 1323年10月16日-01:00|フランス/イタリア| |||<死去>サヴォイア伯「アメーネ5世」
- 1323年10月16日-01:00|フランス/イタリア| |||<就任>サヴォイア伯「エトアルト」 (~13291104死去)
- 1323年10月16日-09:00|日本| 三重県伊勢市|元亨3年9月16日|第34回内宮遷宮
- 1323年11月16日-01:00|ドイツ| |||<死去>テューリンゲン方伯・マイセン边境伯「フリートリヒ1世」
- 1323年11月16日-01:00|ドイツ| |||<就任>テューリンゲン方伯・マイセン边境伯「フリートリヒ2世」フリートリヒ1世の息子 (~13491118死去)
- 1323年12月-01:00|ドイツ| |||<死去>アンハルト=ベルンブルク侯「Bernhard2世」
- 1323年12月-01:00|ドイツ| |||<就任>アンハルト=ベルンブルク侯「Bernhard3世」 (~13480820死去)
- 1323年12月10日-09:00|日本| ||元亨3年11月12日|拾遺古徳絵伝(茨城常福寺)できる
- 1323年12月29日-09:00|日本| 愛知県一宮市|元亨3年12月|沙弥承念ら、仏師良円に尾張国長隆寺の観音・勢至菩薩立像を造立させる
- 1324年-05:30|インド| |||<建国>ハスター国
- 1324年-03:30|イラン| |||<即位>パダスパニド朝君主「Taj al-Dawla Ziyar」 (~1333年)
- 1324年-02:00|ラトビア/エストニア/ドイツ| |||<就任>リヴォニア騎士団団長「ライマル・ハーン」 (~13280525)
- 1324年-02:00|ウクライナ| |||<即位>キエフ大公「アルキマンタス」 (~1331年)
- 1324年-02:00|トルコ| |||<即位>テケ侯国ベイ「Mahmud・ベイ」 (~1328年)
- 1324年-02:00|ウクライナ| |||<退位>ルツク公「リュバムタス」
- 1324年-02:00|ギリシャ/トルコ| |||エペロスはビザンチン(東ローマ)帝国の属国 (~1338年)
- 1324年 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー-島副守護者「Jean de Clyvedon」 (~1325. 7)
- 1324年 00:00|イギリス| |||<就任>レスター伯「ハンリー」 (13261026ランカスター伯 ~13450922死去)
- 1324年1月2日-09:00|日本| 京都府京都市|元亨3年12月5日|京都大火/四条坊門烏丸より出火、南は楊梅、西洞院、東洞院の50町が焼失、死者多数
- 1324年1月8日-01:00|イタリア| |||<死去>イタリアの探検家マルコ・ポーロ/70歳(誕生:1254)/シルクロードを旅して「東方見聞録」を書く、近代地理学の先駆者
- 1324年1月27日-09:00|日本| 香川県坂出市|元亨4年|白峯寺十三重塔. 建立
- 1324年1月27日-09:00|韓国/朝鮮| ||高麗・泰定1年1月1日|高麗・忠肅王、泰定に改元

1330迄 (1388件)

- 1324年1月27日-08:00|中国/モンゴル ||元・泰定1年1月1日|元代にイェスン・テムルが泰定 (~1328年旧2月)と改元
1324年1月27日-07:00|ベトナム ||大越・開泰1年1月1日|大越・開泰と改元 (-1329年旧2月15日)
1324年2月1日 00:00|アイルランド/イギリス |||<就任>アイルランド 判事「ジョン・ダシー・ル・セュー」 (~13270512)
1324年2月22日-01:00|ドイツ |||<死去>スポンハイム・シュタルケンブルク 伯「John2世」
1324年2月22日-01:00|ドイツ |||<就任>スポンハイム・シュタルケンブルク 伯「John3世」 (~13981230死去)
1324年3月23日-01:00|ドイツ/バチカン |||教皇ヨハネス22世が、ドイツの王位争いに干渉し、ルドヴィヒ4世を破門
1324年3月26日-09:00|日本|静岡県富士宮市|元亨4年3月|南条時光富士上野郷堀之内を二十家阿日華に寄せ妙蓮寺を創す
1324年3月29日 00:00|イギリス |||<就任>3代レスター伯「ヘンリー」先代の弟 (⇒13261026兼3代ランカスター伯 ~13450922死去)
1324年3月31日-02:00|パレスチナ/キプロス |||<即位>エルサレム王・キプロス王国国王「ユーク4世」 (~13581124退位 ~13591010死去)
1324年4月6日-09:00|日本 ||元亨4年3月12日|<死去>熹子内親王 (昭慶門院) (55歳) 亀山天皇の皇女
1324年5月15日-01:00|ポーランド |||<死去>ポソフィエンチム公「ウラディスワフ1世」
1324年5月15日-01:00|ポーランド |||<就任>ポソフィエンチム公「ヤン1世スラスティック」 (~13720929死去)
1324年5月24日-09:00|日本|京都府京都市北区|元亨4年5月|大徳寺建造
1324年6月-03:30|イラン |||<就任>イルハ朝宰相「Rokn-al-Din Sa'en Fasavi」 (~同年) ⇒「Demasq Kaja」 (~13270825殺害される)
1324年6月6日-09:00|日本 ||元亨4年5月14日|<死去>近衛家平 (43歳) 関白、左大臣
1324年6月23日 00:00|イギリス |||<死去>ペンブルック伯「エマー・ド・ウァランス」
1324年7月 00:00|アイルランド/イギリス |||<就任>アイルランド 判事代行「キルメイム修院長ロジャー・ウラ」 (~10月)
1324年7月1日-01:00|フランス/イギリス |||シャルル4世がエドワード2世の在仏全所領の没収を宣告/サン・サルト 戦争が始まる
1324年7月16日-09:00|日本 ||元亨4年6月25日|<死去>後宇多法皇/58歳 (誕生: 文永4 (1267) 1201) 91代天皇
1324年8月7日-09:00|日本 ||元亨4年7月17日|<死去>二条為藤 (50歳) 中納言、歌人
1324年8月25日-09:00|日本|京都府京都市|元亨4年8月5日|<元亨4年洛中暴風雨、洪水>終夜大風雨、京都市中の家屋の多くが流失、多くの人が死亡
1324年8月31日-02:00|パレスチナ/キプロス |||<死去>エルサレム王・キプロス王国国王「アンリ2世」53歳
1324年8月31日-02:00|キプロス |||<即位>キプロス王国国王「ユーク4世 (ヒュゴ4世)」 (~13591010、死去)
1324年9月4日-01:00|スペイン |||<死去>マヨルカ王・サルダニャ伯「サンチ2世」
1324年9月4日-01:00|スペイン |||<即位>マヨルカ王・サルダニャ伯「ジャウメ3世」 (~13491025死去)
1324年9月4日-09:00|日本|京都府京都市|大越・開泰1年8月16日|畿内大風雨・洪水/京中河川氾濫し、死者多い
1324年10月7日-09:00|日本|京都府京都市|元亨4年9月19日|多治見国長、土岐頼兼らが、後醍醐天皇の討幕府計画が発覚したため、六波羅探題の軍勢に攻め殺される (正中の変)
1324年10月22日-09:00|日本 ||元亨4年10月4日|工藤高景ら、正中の変の首謀者として日野資朝 (34)、日野俊基を捕らえ鎌倉に送る
1324年11月18日-09:00|日本 ||元亨4年11月|<任命>六波羅探題南方・丹波国守護「北条貞将 (金沢流)」 (~元徳2 (1330) 年7月24日)
1324年12月8日-09:00|日本|滋賀県|元亨4年11月21日|近江大地震。竹生島が崩れ半分湖に入る
1324年12月21日-09:00|日本|京都府京都市|元亨4年12月5日|京都大火/四条坊門烏丸より出火、楊梅、西洞院、東洞院など焼亡
1324年12月25日-09:00|日本 ||正中1年12月9日|正中に改元
1325年-07:00|タイ |||<即位>ランナー王国マンラーイ朝国王「セーン」 (~1334年)
1325年-05:30|スリランカ |||<死去>ジャフナ王国国王「Varodaya Cinkaiariyan」
1325年-05:30|スリランカ |||<即位>ジャフナ王国国王「Martanda Cinkaiariyan」 (~1348年死去)
1325年-05:30|スリランカ |||<即位>タンパデニヤ王国国王「Parakkamabahu4世」Buvanekka Bahu2世の息子 (~1325年)
1325年-05:30|インド |||<即位>トウグルク朝第2代スルタン「ムハンマド・ヒン・トウグルク」 (~13510320)
1325年-04:00|ロシア |||<就任>ウゴロト 共和国「ゴロト」公「アレクサンドル・ミハイロウイチ」 (~1327年)
1325年-02:00|ギリシャ/イタリア |||<就任>ヴェネツィアのカンテリア公「フィリップ・ベレグノ」 (~1327年)
1325年-02:00|トルコ |||<即位>アイユーブ朝 (ヒスン・カイファ) アミール「Adil Mujir ad-Din Muhammad」 (~1328年)
1325年-02:00|ギリシャ/イタリア |||イリアはジェノヴァの所有 (~1481年)
1325年-01:00|スペイン |||<就任>アンブリアス伯「Peter1世」 (~1341年)
1325年-01:00|フランス |||<就任>オーベルニュ伯「キヨム12世」Robert7世の息子 (~1332年死去)
1325年-01:00|クロアチア |||<就任>スラヴォニア全土のハン「ミカツ・ミハリエウイチ」 (~1343年)
1325年-01:00|ドイツ |||<就任>リュゲン公「ヴァルティスラフ4世」 (~1326年)
1325年-01:00|フランス |||<即位>アキテーヌ公「エドゥアル3世」イングランド 王エドワード3世 (~1360年)
1325年-01:00|デンマーク |||<即位>シュレスヴィヒ公 (エストリクセン家アヘル系)「ヴァルデマー5世」 (~1326年) デンマーク王としてはヴァルデマー3世
1325年-01:00|フランス |||<退位>アキテーヌ公「エドゥアル2世」
1325年 00:00|マリ/ニジェール |||<即位>ソンガイ王国国王「ハダ」 (~1332年)
1325年 00:00|マリ/ニジェール |||ソンガイ王国をマリ帝国が占領 (~1375年)
1325年 07:00|メキシコ |||アステカ族、テスコ湖に浮かぶ島テチイトランに定着/その後テスコ族、トラコパン族と同盟し、武力で周辺諸国を制圧
1325年1月7日 00:00|ポルトガル |||<死去>ポルトガル王「デニス1世農夫王」/62歳 (誕生1261年)

1330迄 (1388件)

- 1325年1月7日 00:00|ポルトガル | ||<即位>ポルトガル王「アフォンソ4世勇敢王」デニス1世の子(~13570528死去)
- 1325年1月12日-09:00|日本 | ||正中1年12月27日<就任>関白「鷹司冬平」(~嘉暦2(1327)年正月19日)
- 1325年1月16日-09:00|日本|神奈川県相模原市|正中2年|呑海上人が相模清浄光寺創建
- 1325年1月16日-09:00|日本|京都府京都市北区|正中2年|大燈国師宗峰妙超禪師が大徳寺創建<臨濟宗大徳寺派大本山>
- 1325年1月16日-09:00|日本|長崎県壱岐市|正中2年|湯岳田原山に嘉暦城を築城
- 1325年1月16日-09:00|日本|広島県尾道市|正中2年|この年、尾道浄土寺の堂舎焼亡
- 1325年1月18日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|正中2年1月3日|北条高時邸から出火し、幕府政所など焼失
- 1325年2月-06:30|ミャンマー | ||<即位>ピンヤ王「ウザナ1世」(~13400901)
- 1325年2月-05:30|インド | ||<死去>トゥグルク朝スルタン「ギヤースッディーン・トゥグルク」
- 1325年2月1日-05:30|インド | ||<即位>トゥグルク朝スルタン「ムハンマト・ヒン・トゥグルク」(~13510320死去)
- 1325年3月-02:00|エジプト/イメン | ||マムルク朝スルタンのナスィルがイメンに派兵
- 1325年3月12日-01:00|デンマーク/ドイツ | ||<死去>シュレスヴィヒ公「エリク2世」
- 1325年3月12日-01:00|デンマーク/ドイツ | ||<即位>シュレスヴィヒ公「ヴァルデマー5世(デンマーク王「アルデマー3世」)」(~1326年)
- 1325年3月13日-01:00|ドイツ | ||フリートリヒがルートヴィヒ4世に屈伏
- 1325年4月-02:00|エジプト | ||ナイル川とカイロ間にナスィル運河が開削
- 1325年4月1日-01:00|サンマリノ | ||<就任>サンマリノ共和国執政「サー・ホナニ・ノタイ」「ミュール・アタリ・ド・ヒ・アンタ・ウ・エロ」
- 1325年6月5日-01:00|ドイツ | ||<死去>ヴュルテンベルク伯「エバールト1世」
- 1325年6月5日-01:00|ドイツ | ||<就任>ヴュルテンベルク伯「ウルヒ3世」(~13440711死去)
- 1325年6月11日-01:00|イタリヤ | ||ベネチア、ブルシアとの通商協定
- 1325年7月7日-01:00|スペイン | ||<死去>グナタ王国ナル朝アミール「イスマイル1世」
- 1325年7月7日-01:00|スペイン | ||<即位>グナタ王国ナル朝アミール「ムハンマト4世」(~13330825死去)
- 1325年7月16日-09:00|日本 | ||正中2年6月6日|蝦夷代官の安東氏が内紛、幕府が蝦夷代官の安東季長を罷免し、安東宗季を任命
- 1325年8月2日-09:00|日本|京都府綴喜郡宇治田原町|正中2年6月23日|興福寺前門主・別当覚尊を奉じて禅定院を襲撃し、現門主・聖信を追放
- 1325年8月5日-09:00|日本|京都府京都市|正中2年6月26日|京都で大雷雨、洪水、白川など氾濫、富小路殿(二条北・富小路東)浸水、死者500人
- 1325年8月10日-09:00|日本|京都府綴喜郡宇治田原町|正中2年7月|聖信の党が禅定院・竜華樹院を焼く
- 1325年9月5日-01:00|ドイツ/イタリヤ | ||<復位>ドイツ王・イタリヤ王「フリートリヒ3世」共同(~13300113没)
- 1325年9月8日-09:00|日本|新潟県佐渡市|正中2年8月|幕府、日野資朝(35)を佐渡に配流/日野俊基は釈放
- 1325年10月23日-09:00|日本|三重県伊勢市|正中2年9月16日|第34回外宮遷宮
- 1325年11月7日-09:00|日本 | ||正中2年10月1日<死去>一条内経(35歳)関白、内大臣
- 1325年11月21日-04:00|ロシア | ||<死去>モスクワ公「ユーリ3世ダニロウイチ」
- 1325年11月21日-04:00|ロシア | ||<即位>モスクワ公「イワン1世」(~13400331死去)
- 1325年11月29日-09:00|日本|京都府京都市|正中2年10月23日|後伏見上皇の御所衣笠殿が焼失
- 1325年12月16日-01:00|フランス | ||<死去>アンジュー伯「シャルル3世」兼ヴァロア伯「シャルル1世」兼シャルトル伯「シャルル」55歳
- 1325年12月16日-01:00|フランス | ||<就任>アンジュー伯・ヴァロア伯「フィリップ1世」(フランス国王、メース伯)シャルル3世とマルグリット1世の息子(~13280401~13500822死去57歳)
- 1326年-08:00|インドネシア | ||<即位>サムラパサイ王国第3代スルタン「アフマド1世」(~1336年)
- 1326年-05:30|スリランカ | ||<即位>ダンパティニヤ王国国王「Bhuvana ikabahu3世」(~同年)⇒「Vijayabahu5世」(~1344年)
- 1326年-05:00|ウズベキスタン | ||<即位>西チャグタイハン国ハン「タルマリンドウアの子」(~1334年)
- 1326年-05:00|ウズベキスタン | ||<即位>東チャグタイハン国ハン「イルシギティ」ドウアの子(~1330年)
- 1326年-03:00|ベラルーシ/リトアニア | ||<即位>ミンスク公「フォートル・スガトスラウイチ」(~同年リトアニアによって公国廃止)
- 1326年-01:00|デンマーク/ドイツ | ||<就任>シュレスヴィヒ公「ゲアハ1世(ホルシュタイン=レンズブルク伯ゲルハルト3世)」(~1330年)
- 1326年-01:00|ドイツ | ||<就任>リュッケン公「ボギスラフ5世、ヴァルティスラフ5世、ハルニム4世」(~1368年)
- 1326年1月22日-09:00|日本 | ||正中2年12月18日|続後拾遺和歌集撰進
- 1326年2月4日-09:00|日本|香川県仲多度郡多度津町|正中3年|熊手八幡宮(現、多度津町)五輪塔、建立
- 1326年2月28日-01:00|オーストリア | ||<死去>オーストリア公・シュターマルク公「レオルト1世」
- 1326年2月28日-01:00|オーストリア | ||<即位>オーストリア・シュタイアマルク公「アルブレヒト2世」(~13580720、死去)
- 1326年4月6日-02:00|トルコ | ||オスマン朝第2代のオルハンが、ヒザンチン帝国のブルサを征服
- 1326年4月19日-09:00|日本 | ||正中3年3月16日<就任>15代鎌倉幕府執権「北條貞顕」(~同年3月26日)
- 1326年4月23日-09:00|日本 | ||正中3年3月20日<死去>後醍醐天皇の皇太子、邦良親王(26)
- 1326年5月1日-09:00|日本 | ||正中3年3月28日<死去>出雲国守護「塩冶貞清」(次に高貞が就任~1336年)
- 1326年5月2日-09:00|日本 | ||正中3年3月29日|幕府工藤祐貞を派遣し蝦夷を討伐
- 1326年5月28日-09:00|日本 | ||嘉暦1年4月26日|嘉暦に改元
- 1326年6月1日-09:00|日本|青森県西津軽郡深浦町|嘉暦1年5月|工藤祐貞は安藤季長の根拠地の西浜の折曾関の城郭を攻め、曾我光頼の協力を得て季長を捕虜に
- 1326年6月7日-01:00|デンマーク | ||<就任>デンマーク摂政「ホルシュタインとストーマンのゲルハルト・グラーフ」(~13300223)
- 1326年6月7日-01:00|デンマーク | ||<即位>デンマーク王「ヴァルデマー3世」シュレスヴィヒ公エリク2世とホルシュタイン公女アテールハイの息子(~13300223廃位~1364年死去)
- 1326年6月7日-01:00|デンマーク | ||<廃位>デンマーク王「クリストファ2世」

1330迄 (1388件)

- 1326年6月27日-01:00|アンドラ| |||<就任>アンドラ公国共同大公「ウルヘルシ教アノウドルルタ」(~13411003)
- 1326年7月25日 00:00|チャン礼諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージ-島守護者「Raoul Basset de Drayton」+「Jean de Roches」(~13270329)
- 1326年7月26日-01:00|イタリヤ| |||<死去>チノ侯「アルドブランディノ2世」
- 1326年7月29日-02:00|トルコ| |||<交替>オスマン帝国ベ「オスマン1世」退位⇒「オルハン」先代の子(~1362. 3死去)
- 1326年7月29日 00:00|イギリス| |||<死去>アルスター伯「リチャード・オグ・ド・バラ」
- 1326年7月29日 00:00|イギリス| |||<就任>アルスター伯「ウィリアム・ド・ノット・バラ」(~13330606死去)
- 1326年7月30日-09:00|日本|青森県|嘉暦1年7月以降|季長の郎等安藤季兼が残兵を集めて蜂起、幕府はこの反乱軍を「津軽山賊」と称す
- 1326年8月1日-01:00|ポーランド/ドイツ| |||<死去>ポズナニウ公「カズミルツ4世」
- 1326年8月1日-01:00|ポーランド/ドイツ| |||<就任>ポズナニウ公「カズミルツ」(摂政)「エリザベート・フォン・リントー＝ルヒン」(~1330年ごろ~1355. 2から13560702の間死去)
- 1326年9月15日-04:00|ロシア| |||<死去>ウラジミール・スズダリ大公「トウアリ公トミトリ・ミハイロウイチ・グロズニエ・チ」
- 1326年9月15日-04:00|ロシア| |||<即位>ウラジミール・スズダリ大公「トウエリ公アレクサンドル・ミハイロウイチ」(~1327年)
- 1326年9月24日 00:00|イギリス| |||イングランド王妃イザベラが、ロジャー・モーターとエドワード2世に謀反を起こす
- 1326年10月13日-09:00|日本|京都府八幡市|嘉暦1年9月17日|石清水護国寺焼失
- 1326年10月26日 00:00|イギリス| |||<就任>3代ランカスター伯「ヘンリー」3代レスター伯(~13450922死去)
- 1326年10月27日 00:00|イギリス| |||<死去>初代ウィンチェスター伯「ヒュー・ル・デ・イスパニヤ」処刑される
- 1326年11月17日 00:00|イギリス| |||<死去>アランデル伯「エドムント・フィッツアラン」剥奪
- 1326年11月25日-09:00|日本| ||嘉暦1年10月30日|<死去>惟康親王(鎌倉幕府7代将軍)[12640429生~](享年62)
- 1326年11月25日-09:00|日本|京都府京都市|嘉暦1年10月30日|嵯峨の北畠親房の屋敷が焼失
- 1326年11月26日 00:00|イギリス| |||イングランドのエドワード2世が捕らえられる
- 1327年-07:00|カホジヤ| |||<即位>カメル王朝国王「ジャヤヴァルマテハ・ラメシウガアラ」(~1336年暗殺される)
- 1327年-05:30|インド| |||トウグルク朝がテングアキリに一時遷都
- 1327年-04:00|ロシア| |||<死去>リヤザン大公「イヴァン1世ヤロスラウイチ」
- 1327年-04:00|ジョージア| |||<即位>イメリティ王「マイケル」(~1329年死去)
- 1327年-04:00|ロシア| |||<即位>プスコフ公「アレクサンドル・ミハイロウイチ」(~1330年)
- 1327年-04:00|ロシア| |||<即位>プロンスク公「ミハイル・ヤロスラウイチ」(~1340年以前)⇒「アレクサンドル・ミハイロウイチ」(~1340年)
- 1327年-04:00|ロシア| |||<即位>リヤザン公「イヴァン2世イヴァノウイチ・コロボル」(1342年~1343年死去)
- 1327年-02:00|ギリシヤ/イタリヤ| |||<就任>ウエネツィアのカンテアファ公「ジョヴァンニ・モロシニ」(~1329年)
- 1327年-02:00|トルコ| |||オスマン朝オルハンベ「イカ」貨幣をブルサで鑄造
- 1327年-01:00|ポーランド| |||<死去>ピトム公「Jerzy」
- 1327年-01:00|フランス| |||<就任>エタンブ伯「Charles d' Evreux」(~13360905死去)
- 1327年-01:00|ドイツ| |||<就任>フェルトツ伯「George1世」(~1347年)
- 1327年-01:00|フランス| |||<就任>ブルボン公「ルイ1世」(~13420129死去)
- 1327年-01:00|クロアチヤ/イタリヤ| |||ウエネツィアによるダルマチアのスプリット統治(~1357年)
- 1327年-01:00|ポーランド/ベルギー| |||ブレタはブラハント公国が管轄(~1350年)
- 1327年1月24日-09:00|日本| ||嘉暦2年|<任命>肥後国守護「北条高政」(~元弘3・正慶2(1333年)年)
- 1327年1月24日-09:00|日本|山口県下関市|嘉暦2年|功山寺仏殿できる
- 1327年1月24日-08:00|中国| ||元・泰定4年|<即位>天山ウイグル王国イクト「センギ」テムルブカの弟(~1331年)
- 1327年1月25日 00:00|イギリス| |||<即位>イングランド王「エドワード3世」エドワード2世とイザベラ・オブ・フランスの男子(~13770621死去64歳)
- 1327年1月25日 00:00|イギリス| |||<廃位>イングランド王「エドワード2世」(~13270921殺害される43歳)
- 1327年1月29日-01:00|ドイツ| |||<死去>ライン宮中伯「アトルフ」
- 1327年1月29日-01:00|ドイツ| |||<就任>ライン宮中伯「ルドルフ2世」(~13531004死去)
- 1327年2月5日-06:30|ミャンマー| |||<即位>サガイン王「タビヤ1世」(~1335年)
- 1327年2月11日-09:00|日本| ||嘉暦2年1月19日|<死去>鷹司冬平(53歳) 摂政・関白、太政大臣
- 1327年2月23日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|嘉暦2年2月|僧疎石、瑞泉寺を創建
- 1327年3月6日-09:00|日本| ||嘉暦2年2月12日|<就任>関白「二条道平」(~元徳2(1330)年正月26日)
- 1327年3月29日 00:00|チャン礼諸島| |||<就任>イギリス王領ジャージ-島守護者「Jean de Roches」+「Robert de Norton」(~13280612)
- 1327年4月4日-09:00|日本|奈良県奈良市|嘉暦2年3月12日|興福寺の僧徒の闘争により金堂以下焼失
- 1327年4月5日-09:00|日本| ||嘉暦2年3月13日|<死去>九条房実(38歳) 関白、左大臣
- 1327年5月1日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事代行「キルメイナム修院長ロジャー・ウラ」(~12日)
- 1327年5月3日-09:00|日本|広島県尾道市|嘉暦2年4月11日|沙弥道蓮・尼道性、大願主として、尾道浄土寺観音堂を再興
- 1327年5月12日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事「キルデア伯トマス・フィッツジェラルド」(2回目~13280405)
- 1327年5月16日-09:00|日本| ||嘉暦2年4月24日|<就任>16代鎌倉幕府執権「赤橋[北条]守時」(~元弘3年・正慶2(1333)年5月18日戦死)
- 1327年5月31日-01:00|イタリヤ| |||<即位>イタリヤ王「ルイジ4世」エンリコ7世死後に後継者に選出され、ヴァッテルスバッハ朝を開く(~13471011死去)
- 1327年7月3日-09:00|日本| ||嘉暦2年6月14日|安東季長の残党が陸奥で挙兵/幕府、追討使宇都宮高貞・小田高

1330迄 (1388件)

知を派遣し討伐

- 1327年8月25日-03:30|イラン| |||<死去>イルハン朝宰相「Demasq Kaja」殺害される
- 1327年8月25日-03:30|イラン| |||<就任>イルハン朝宰相「Ghiyas-al-Din Mohammad Rashidi」「Ala'-al-Din Mohammad Faryumadi」
- 1327年9月-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パライン代行「シャント・ル・コツキ」(~1328年2月没)
- 1327年9月21日 00:00|イギリス| |||<死去>廃位させられた前イングランド王「エドワード2世」が幽閉先で王妃イザベラ・オブ・フランスの密命を受けた刺客により殺害される/43歳(誕生12840425)
- 1327年10月28日-01:00|アンドラ| |||<就任>カジュエ伯「James1世」(~13471115毒殺される)
- 1327年11月2日-01:00|スペイン| |||<死去>アラゴン国王・サルデーニャ国王「ハイメ2世公正王」兼バルセロナ伯「ジャウマ2世」60歳
- 1327年11月2日-01:00|スペイン| |||<即位>アラゴン国王・サルデーニャ国王「アルフォンソ4世」兼バルセロナ伯「アルフォンソ3世慈悲王」ハイメ2世とブランカ・デ・カステルの息子(~13360124死去37歳)
- 1328年-08:00|インドネシア| |||<死去>マジャパヒト王国国王「ジヤヤカウ」一貴族に暗殺される
- 1328年-08:00|インドネシア| |||<即位>マジャパヒト王国国王「ラジャパトニトリワナ」ジヤヤカウの異母妹(~1350年)
- 1328年-07:00|ベトナム| ||大越・大慶5年|<即位>パントウランガ王「Po Binnasuar (Ba Binh)」(~1373年)
- 1328年-05:30|インド| |||<即位>東ガంగా朝国王「ナラシハ・デーヴァ3世」(~1352年)
- 1328年-04:00|ロシア| |||<就任>ウゴロト共和国ノゴロト公「イヴァン・ダニロヴィチ」(~1337年)
- 1328年-04:00|ロシア| |||<即位>ウラジミール・スズダリ大公「スズダリ公アレクサンドル・ウアシリエヴィチ」(~1331年没)
- 1328年-03:30|イラン| |||<死去>ハバント朝太守「Shah-Kaykhusraw」
- 1328年-03:30|イラン| |||<即位>ハバント朝太守「Sharaf al-Muluk」(~1334年死去)
- 1328年-02:00|トルコ| |||<即位>アイユーブ朝(ヒンカイフ)アミール「Adil Shahab ad-Din」(~1349年)
- 1328年-02:00|トルコ| |||<即位>テケ侯国ヘイ「Sinanuddin Hizir・ヘイ」(~1355年)
- 1328年-01:00|フランス| |||<死去>シャルル伯「Louis」
- 1328年-01:00|ドイツ| |||<死去>ラーフェンスベルク伯「オット4世」
- 1328年-01:00|フランス| |||<死去>ルル伯「ジャンヌ」
- 1328年-01:00|ドイツ| |||<就任>ヘッセン方伯「ハインリヒ2世鉄伯」オット1世の息子(~1376年)
- 1328年-01:00|ロシア| |||<就任>ホルヴィツァ公「カレール・ユリニッチ」
- 1328年-01:00|ドイツ| |||<就任>ラーフェンスベルク伯「ヘルンハルト」(~1346年)
- 1328年-01:00|ロシア/イタリア| |||タルマチア(スプリットを含む)は主にヴェネツィアの支配下にあった(~13580218)
- 1328年 00:00|イギリス| |||<就任>6代キャリック伯「デヴィッド・ブルース」先代の甥(~1330年)
- 1328年 00:00|イギリス| |||<就任>スコットランド大法官「ウラスコ・フリスモ」学長ウオルター・デ・トウインハム(~1329年)
- 1328年 00:00|マン島| |||<就任>マン王「Thomas Randolph」(2期目~13320720)
- 1328年1月17日-01:00|ドイツ/イタリア/オーストリア/フランス| |||<即位>神聖ローマ帝国皇帝「ルートヴィヒ4世」イタリア王・ブルグント王(~13471011没)
- 1328年2月-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パライン代行「ハル・ナギ・マルトニ」(1回目~1328年9月)
- 1328年2月1日-01:00|フランス/スペイン| |||<死去>フランス王「シャルル4世端麗王」兼ナバラ王「カロス1世」34歳
- 1328年2月1日-01:00|スペイン| |||<即位>ナバラ王「ファ2世」ルイス1世とマルグリット・ド・ブルゴニユの女子(~13491006死去37歳)、「フェリペ3世」エウルー伯ルイとマルグリット・ダルクワの男子(~13430916死去37歳)共同統治
- 1328年2月2日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|嘉暦2年12月21日|幕府造営が完成し、将軍守邦親王(26)が移る
- 1328年2月12日-09:00|日本|広島県尾道市|嘉暦3年|この年、尾道浄土寺塔できる
- 1328年3月17日 00:00|イギリス| |||スコットランド王ロバート1世が、イングランド王エドワード3世とエディンバラ・ノーザンプトン締結/スコットランドを独立国として認めた
- 1328年4月1日-01:00|フランス| |||<就任>モレン伯「Joan2世 of Navarre」(~13491006死去)
- 1328年4月1日-01:00|フランス| |||<即位>フランス国王「フィリップ6世」フィリップ3世の子およびフィリップ4世の弟シャルル・ド・ヴァロワの子(~13500822)
- 1328年4月6日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事「キルメイナム修院長ジョン・ウラ」(~1329年5月)
- 1328年4月7日-08:00|中国/モンゴル| ||元・致和1年2月27日|元の泰定帝イェスン・テムルが致和(~旧9月)に改元
- 1328年5月 00:00|チャンネル諸島| |||<死去>イギリス王領ジャージー-島・ガーンジー-島主「Othon de Grandison卿」
- 1328年5月4日 00:00|イギリス| |||エディンバラ・ノーザンプトン条約により、スコットランドが独立
- 1328年5月12日-01:00|バチカン| |||<就任>対立ローマ教皇「ニコラウス5世」(~13300725退任)
- 1328年5月12日-09:00|韓国/朝鮮| ||高麗・致和1年4月2日|元の改元により高麗・致和と改元
- 1328年5月24日-02:00|トルコ| |||<即位>ニカイア帝国皇帝「アントロニコス3世パオロス」シエル9世パオロスと皇后マリアの子(~13410615死去)
- 1328年5月24日-02:00|トルコ| |||<退位>ニカイア帝国皇帝「アントロニコス2世パオロス」(~13320213死去)
- 1328年5月25日-02:00|ラトヴィア/エストニア/ドイツ| |||<就任>リウネア騎士団団長「エーバーハルト・フォン・モンハイム」(~13400624)
- 1328年6月11日-01:00|イタリア| |||ベネツィア、コモと通商協定
- 1328年6月12日 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー-島守護者「Jean de Roches」(~13300909)
- 1328年7月18日-01:00|ドイツ| |||<死去>アーレンベルク伯・マルク伯「エンゲルベルト2世」
- 1328年7月18日-01:00|ドイツ| |||<就任>アーレンベルク伯「エーバーハルト1世」(~1387年)
- 1328年7月18日-01:00|ドイツ| |||<就任>マルク伯「アトル2世」(~13471019死去)
- 1328年7月29日-01:00|ドイツ/オランダ| |||<死去>ユリヒ伯「ゲルハルト5世(7世)」
- 1328年7月29日-01:00|ドイツ/オランダ| |||<就任>ユリヒ伯「ウイヘルム6世」(1356年、ユリヒ伯は公爵に昇格~13610226死去)

)

1330迄 (1388件)

- 1328年8月6日-01:00|イタリヤ| |||<死去>ミラノ・シニョレ「ガレアツォ1世・ウ・イスクンティ」
- 1328年8月6日-01:00|イタリヤ| |||<就任>ミラノ・シニョレ「アツォネ・ウ・イスクンティ」(~13390816死去)
- 1328年8月15日-08:00|中国/モンゴル| ||元・致和1年7月10日|<死去>元第6代皇帝「泰定帝イェスン・テムル」/年36/後継をめぐり内乱が発生
- 1328年8月16日-01:00|イタリヤ| |||<就任>マントヴァのガットゥーソ・デル・ポポロ「ルドヴィーゴ1世・ゴンザーガ」(~13600118死去)
- 1328年8月22日-09:00|日本| ||嘉暦3年7月17日|<死去>冷泉為相(66歳)権中納言、歌人
- 1328年8月23日-01:00|フランス| |||<即位>ロレーヌ(ロートリンゲン)公「ルドルフ」(~13460826クレーの戦いで戦死)
- 1328年8月23日-01:00|フランス| |||<退位>ロレーヌ(ロートリンゲン)公「フェリ4世」
- 1328年8月23日-01:00|フランス| |||フランス王フィリップ6世、ドイツ中央部のカッセルでの「カッセルの戦い」で「フランドル諸都市の反乱(フランドル農民反乱)」を鎮圧
- 1328年9月-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国「ラタイ「ヤーシュ・ド・ルゲシュ・ホメイ」」(~1333年6月)
- 1328年9月4日-01:00|イタリヤ/キプロス| |||ベネツィア、キプロス王ウーゴ4世と協定
- 1328年9月9日-01:00|イタリヤ| |||<死去>カラブリア公「カルロ」
- 1328年10月3日-08:00|中国/モンゴル| ||元・致和1年8月29日|<即位>元第7代皇帝「天順帝アリギハ」(~天順元年10月13日11月14日)イェスン・テムルの長男、致和から(~旧10月)と改元
- 1328年10月16日-09:00|韓国/朝鮮| ||高麗・天曆1年9月13日|高麗・忠肅王、元文宗からの通告に従い天曆と改元
- 1328年10月16日-08:00|中国/モンゴル| ||元・天曆1年9月13日|<即位>元第8代皇帝「文宗トク・テムル」(~1329年4月3日)カイジャンの次男/致和から天曆(~1330年)と改元
- 1328年10月27日 00:00|イギリス| |||<就任>マーチ伯「ロジャール・モーター」(~1330.11末死刑剥奪)
- 1328年10月28日-03:00|イェメン| |||<死去>ラッシー朝イマム「アルマテ・イムハンマト」
- 1328年10月28日-03:00|イェメン| |||<即位>ラッシー朝イマム「アルムライアト・ヤヤ・ビン・ハムザ」(~1346年死去),「アンナジール・アリ・ビン・サラ」(~1329年死去)アルマテ・イムハンマトの孫
- 1328年11月3日-09:00|日本| ||嘉暦3年10月|安藤季兼軍と幕府の和議成立 季長が釈放され蝦夷代官に復す
- 1328年11月9日-01:00|イタリヤ| |||<死去>カラブリア公(ホーリ王の推定相続人の称号)「カルロ」
- 1328年11月15日-08:00|中国/モンゴル| ||元・天曆1年10月13日|<廃位>元第7代皇帝「天順帝アリギハ」
- 1328年11月16日-09:00|日本| ||嘉暦3年10月14日|<死去>久明親王(鎌倉幕府8代将軍)[12760911生~](享年52)
- 1328年12月4日-01:00|イタリヤ| |||イタリヤ中部(ルチア、レプシ)で地震(M6.5)、死者5千人
- 1328年12月7日-09:00|日本| ||嘉暦3年11月6日|<死去>冷泉為守(暁月)(64歳)歌人
- 1328年12月31日-01:00|イタリヤ| |||<死去>ヴェネツィア共和国「ジョージョ・アンニ・ソランツォ」
- 1329年-04:30|アッカ・ニスタン| |||<即位>カト朝マリク「Shams-uddin Muhammad ibn Ghiyath-uddin」(~1330年)
- 1329年-04:00|ジョージア| |||<死去>イメリ王「マイケル」
- 1329年-04:00|ジョージア| |||<即位>イメリ王「バグラト1世」(~1330年)
- 1329年-03:30|イラン| |||<即位>カト朝マリク「シャムスッティーン3世・ムハンマト・イブン・ギヤスッティーン」(~1330年)
- 1329年-03:00|イェメン| |||<死去>ラッシー朝イマム「アンナジール・アリ・ビン・サラ」
- 1329年-03:00|イェメン| |||<即位>ラッシー朝イマム「アフマト・ビン・アリ・アルファシ」(~1349年死去)
- 1329年-02:00|ギリシャ/イタリヤ| |||<就任>ヴェネツィアのカンテリア公「マリオ・モロニ」(~1331年)
- 1329年-02:00|エストニア/デンマーク| |||<就任>デンマーク・エストニア総督「ハインリッヒ・シュプリット」(~同年)
- 1329年-01:00|セルビア| |||<就任>初代セルビア侯「ラサル・フレバリャノウイチ」(~1389年)
- 1329年-01:00|ドイツ| |||<就任>メクレンブルク侯「アルブレヒト2世偉大公」ハインリッヒ2世の息子(⇒1348年公爵⇒1352年メクレンブルク=シュタルク公~1393年)
- 1329年-01:00|イタリヤ| |||<即位>ミラノのシニョレ(ウ・イスクンティ家)アツォネ・ウ・イスクンティ(~1339年)
- 1329年 00:00|イギリス| |||<死去>ストラサン伯「マリス4世」
- 1329年 00:00|イギリス| |||<就任>ウォリック伯「トマス・ド・ベークナム」先代の子(~13691113死去)
- 1329年 00:00|イギリス| |||<就任>スコットランド 大法官「ブレチン司教アダム・ド・モウグイア」(~1332年)
- 1329年1月4日-01:00|イタリヤ| |||<就任>ヴェネツィア共和国「ジョージョ」(元首)「フランチェスコ・ダントロ」(~1339年)
- 1329年1月31日-09:00|日本| ||嘉暦4年|<解任>伊勢国守護「金沢貞顕」
- 1329年1月31日-09:00|日本| ||嘉暦4年|<任命>因幡国守護「海老名維則」(~不詳)
- 1329年1月31日-09:00|日本| ||嘉暦4年|<任命>上総国守護「足利貞氏」(~元徳3(1331)年9月5日死去、以後足利氏~1333年)
- 1329年2月27日-08:00|中国/モンゴル| ||元・天曆2年1月28日|<即位>元第9代皇帝「明宗コソラ」(~天曆2年8月6日8月30日)カイジャンの長男、トク・テムルの兄
- 1329年3月2日-09:00|日本|新潟県佐渡市|嘉暦4年2月|日興の命により三位日順佐渡に本照寺を創す
- 1329年3月15日-07:00|ベトナム| ||大越・開泰6年2月15日|<譲位>陳朝(大越)皇帝「明宗」
- 1329年3月15日-07:00|ベトナム| ||大越・開祐1年2月15日|<即位>陳朝(大越)皇帝「憲宗」(~13410724(開祐13年6月1日)死去)開祐と改元(~1341年旧8月20日)
- 1329年4月3日-08:00|中国/モンゴル| ||元・天曆2年3月4日|<退位>元第8代皇帝「文宗トク・テムル」
- 1329年5月 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 判事「ジョン・ダシー・ル・コッシン」(~13310602)
- 1329年6月6日-01:00|フランス/イギリス| |||イングランドのEdward 3世が、アミアンでガスコニュに関してフランス王への臣従を誓約
- 1329年6月7日 00:00|イギリス| |||<死去>スコットランド 王「ロバート1世幸運王」54歳
- 1329年6月7日 00:00|イギリス| |||<即位>スコットランド 王「デーヴィッド2世」(1期目~13320812)
- 1329年8月7日 00:00|イギリス| |||<就任>デズモンド伯「モリス・フィッツジェラルド」(~13560125死去)
- 1329年8月30日-08:00|中国/モンゴル| ||元・天曆2年8月6日|<死去>元第9代皇帝「明宗コソラ」臣に殺される/年30

1330迄 (1388件)

- 1329年9月 00:00|マシ島/イギリス| ||<就任>マシ島知事「Edmund Mortayn」
- 1329年9月8日-08:00|中国/モンゴル| ||元・天曆2年8月15日|<復位>元第10代皇帝「文宗トク・テムル」(~至順3年8月12日(1332年9月2日))
- 1329年9月22日-09:00|日本| ||元徳1年8月29日|<死去>瑞子女王(永嘉門院)(58歳)宗尊親王の王女、後宇多天皇の後宮
- 1329年9月22日-09:00|日本| ||元徳1年8月29日|元徳に改元
- 1329年9月23日-09:00|日本| ||元徳1年8月30日|<死去>洞院いん子(玄輝門院)(84歳)後深草天皇の妃
- 1329年11月4日-01:00|フランス/イタリア| ||<死去>サウ・オイ伯「エドアルト」
- 1329年11月4日-01:00|フランス/イタリア| ||<就任>サウ・オイ伯「アイモネ」(~13430622死去)
- 1329年11月27日-01:00|フランス| ||<死去>アルトリ伯「Mahaut」
- 1329年11月27日-01:00|フランス| ||<就任>アルトリ伯「Joan1世」(~13300121死去)
- 1330年-05:00|ウズベキスタン| ||<即位>東チャグタイ・ハン国ハン「ドレ・テムル[トウアの子」(~1333年)
- 1330年-04:30|アフガニスタン| ||<即位>カト朝マリク「Hafiz ibn Ghiyath-uddin」(~1332年、殺害される)
- 1330年-03:30|イラン/アフガニスタン| ||<死去>ミフハニド朝マリク「Nusrat al-Din Muhammad」
- 1330年-03:30|イラン| ||<即位>カト朝マリク「ハフイズ・イブン・キヤスッティーン」(~1332年、暗殺された)
- 1330年-03:30|イラン| ||<即位>ハザラース朝君主「Rukn al-Din Yusuf Shah2世」(~1340年)
- 1330年-03:30|イラン/アフガニスタン| ||<即位>ミフハニド朝マリク「Qutb al-Din Muhammad」(~1346年死去)
- 1330年-02:00|ジンバブエ| ||<設立>ムウェネムタハ(モマツツとも呼ばれる)国家
- 1330年-02:00|トルコ| ||<即位>トルビゾント帝国第10代皇帝「アントロニコス3世」(~13320108)
- 1330年-01:00|イタリア/フランス| ||<死去>サルツァ侯「マンフレート4世」
- 1330年-01:00|イタリア/フランス| ||<就任>サルツァ侯「マンフレート5世」(~1332年退位),「フェリコ1世」(~1336年死去)
- 1330年-01:00|ドイツ| ||<就任>ハーンテンハッハルク辺境伯「ハインリヒ4世」(~1369年)
- 1330年-01:00|ポーランド/ドイツ| ||<就任>ホンメルンヴオルカスト公「ホギスラフ5世大公」(⇒1368年ホンメルンヴオルカスト=シュトルプ公~13740423死去),「ヴァルティスラフ5世人民の父公」(~1368年~1390年死去),「ハルム4世善良公」(~13650822死去)
- 1330年-01:00|マルタ| ||<就任>マルタ伯「Alfonso Federigo d' Aragona」(~1338年死去)
- 1330年-01:00|デンマーク/ドイツ| ||<復位>シュレスヴィヒ公「ヴァルデマー5世(デンマーク王ヴァルデマー3世)」(~1364年死去)
- 1330年 00:00|イギリス| ||<就任>7代キャリック伯「アレクザンダー・ブルース」5代目の息子(~13330719死去)
- 1330年 00:00|イギリス| ||<就任>ストラサン伯「マリス」5世」(~1334年剥奪)
- 1330年 07:00|キジコ| ||テノティトラを首都にアステカ国が形成される
- 1330年1月13日-01:00|ドイツ/オーストリア/イタリア| ||<死去>ドイツ王・イタリア王「フリートリヒ3世美王」兼オーストリア・シュタイアマルク公「フリートリヒ1世美王」(誕生1289年)77歳
- 1330年1月13日-01:00|オーストリア| ||<即位>オーストリア公・シュタイアマルク公「アルブレヒト2世賢公」(~13580816死去59歳),「オット陽気公」(~13390217死去37歳)
- 1330年1月20日-09:00|日本| ||元徳2年|<任命>伊予国守護「宇都宮豊房」(~1331年、次に貞宗が就任~1333年)
- 1330年1月20日-08:00|中国/モンゴル| ||元・天曆3年1月|元、雲南で諸王禿堅らが反乱
- 1330年1月21日-01:00|フランス| ||<死去>アルトリ伯「ジャンヌ1世」兼ブルゴニユ伯「ジャンヌ2世」
- 1330年1月21日-01:00|フランス| ||<就任>アルトリ伯「ジャンヌ2世」兼ブルゴニユ伯「ジャンヌ3世」(~13470815死去)
- 1330年1月31日-01:00|ベルギー| ||<死去>ナムール伯「ジャン1世」
- 1330年1月31日-01:00|ベルギー| ||<就任>ナムール伯「ジャン2世」ジャン1世の子(~13350402死去)
- 1330年2月14日-09:00|日本| ||元徳2年1月26日|<就任>関白「近衛経忠」(~同年8月25日)
- 1330年2月18日-09:00|朝鮮| ||高麗・天曆3年1月30日|<即位>高麗王「忠恵王」(~13320321退位)
- 1330年2月18日-09:00|朝鮮| ||高麗・天曆3年1月30日|<退位>高麗王「忠肅王」
- 1330年2月23日-01:00|デンマーク| ||<廢位>デンマーク王「ヴァルデマル3世」(~1364年死去)
- 1330年2月23日-01:00|デンマーク| ||<復位>デンマーク王「クリスファ2世エリクセン」(2回目~13320802死去55歳)
- 1330年3月7日-09:00|日本|愛知県|元徳2年2月17日|<死去>一色公深(不明)三河守護
- 1330年3月18日-02:00|ラトビア/エストニア| ||リガはリウオーネ騎士団へ降伏(~14840518)
- 1330年3月19日 00:00|イギリス| ||<死去>初代ケント伯「エドマント・オブ・ウットストック」私権剥奪
- 1330年3月31日-09:00|日本|熊本県熊本市|元徳2年3月12日|後醍醐天皇が幕府に藤崎八幡宮を造営させる
- 1330年4月-06:30|ミャンマー| ||<死去>ペーゲー王「ソーゼン」
- 1330年4月-06:30|ミャンマー| ||<即位>ペーゲー王「セイン・フン」(~同月没)⇒「ソーエー」(~6月没)
- 1330年4月10日-01:00|ドイツ| ||<死去>リュネブルク侯「オット2世厳格公」
- 1330年4月10日-01:00|ドイツ| ||<就任>リュネブルク侯「オット3世」(~13520819死去),「ヴァイルヘルム2世」(13691123死去)
- 1330年5月8日-09:00|日本|広島県福山市|元徳2年4月20日|藤原貞氏、父母の報恩のため、木造地藏菩薩坐像(福山鞆安国寺蔵)を造立
- 1330年5月25日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至順1年5月8日|元の文宗トク・テムルが至順(~1333年)と改元
- 1330年6月-06:30|ミャンマー| ||<死去>ペーゲー王「ソーエー」
- 1330年6月-06:30|ミャンマー| ||<即位>ペーゲー王「ヒンニャー・エーロー」(~1348年没)
- 1330年6月1日-09:00|韓国/朝鮮| ||高麗・至順1年5月15日|高麗・忠恵王が至順と改元
- 1330年6月25日-09:00|日本| ||元徳2年6月9日|沽酒の法を制定
- 1330年6月27日-09:00|日本| ||元徳2年6月11日|米価高騰のため、後醍醐天皇が公設の市場を建てる
- 1330年7月3日-09:00|日本|広島県三原市|元徳2年6月17日|源信成、極楽往生のため、木造多聞天立像(本郷東禅寺蔵)を造立

1330迄 (1388件)

- 1330年7月17日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 判事代行「キルメイム修院長ロジャー・ウトラ」(~13310602)
- 1330年7月25日-01:00|バチカン| |||<退任>対立ローマ教皇「ニコラス5世」
- 1330年7月28日-02:00|ブルガリア| |||<死去>第二次ブルガリア帝国皇帝「ミハイル・アッセン3世シュマン」
- 1330年7月28日-02:00|ブルガリア| |||<就任>第二次ブルガリア帝国摂政(事実上)「アンナ」(~1331年3月)
- 1330年7月28日-02:00|ブルガリア| |||<即位>第二次ブルガリア帝国皇帝「イワン・ステファン」(~1331年3月)
- 1330年9月3日-09:00|日本| ||元徳2年7月20日|<任命>六波羅探題南方・丹波国守護「北条時益(政村流)」(~正慶2(1333)年5月7日)
- 1330年9月9日 00:00|チャンル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージ-島守護者「Pierre Bernard de Pynsole」+「Laurens de Gaillard」(~1331年)
- 1330年10月7日-09:00|日本| ||元徳2年8月25日|<就任>関白「鷹司冬教」(~正慶2(1333)年5月17日)
- 1330年10月13日-09:00|日本|山梨県甲州市|元徳2年9月|二階堂貞藤、夢窓疎石を開山として恵林寺創建<臨済宗妙心寺派>
- 1330年10月29日-09:00|日本| ||元徳2年9月17日|<死去>世良親王(後醍醐天皇の第二皇子)
- 1330年11月3日-02:00|ルーマニア/ハンガリー| |||ウラキア公国ハサプ1世がハンガリーから独立
- 1330年11月30日 00:00|イギリス| |||<死去>マーチ伯「ロジャー・モーティマー」死刑剥奪
- 1330年12月 00:00|イギリス| |||<死去>3代サザ-ランド 伯「ウィリアム・ト・モウア(ウィリアム・サザ-ランド)」
- 1330年12月 00:00|イギリス| |||<就任>4代サザ-ランド 伯「ケネス・ト・モウア(ケネス・サザ-ランド)」(~1330719死去)